

まちや研究



西陣の帯屋捨松(町家点描より)

町家は住空間であるだけでなく、職空間であるところにその特質がある。京都を中心として、日本各地に見られる様々な町家。今日、その数は減少し、その価値が再び問い直されている。「都市住宅」をもとに、「町家」のその本質に迫る。

1. 町家と京

- 町家の一般形・・・成立と構造
生活様式
空間序列
へやの機能分化
町家内部の特化機能
- 京町家とコミュニティ・・・義理の共同体
外部の特化機能
室町、西陣、祇園、中京

2. 京町家・・・職業と空間

西陣－織屋、五番町－遊郭、祇園－お茶屋、錦－市場、伏見－酒屋

3. 町家の地域的展開と職業的展開

日本各地に見られる町家

<参考文献>

- 雑誌「都市住宅」(鹿島出版会) 1972年10月号(以下, 7210)一特集「義理の共同体」
7105～7111、
7201～7211、(24回連載)一共同研究: まちやーその過去・現在・未来
7301～7306、
7310 一共同研究: まちや「総括」

- 京町家・コミュニティ研究(鹿島出版会) 1976年6月25日刊 上田 篤 編
町家・共同研究(鹿島出版会) 1975年7月10日刊 上田 篤・土屋 敦夫 編
京の町家(鹿島出版会) 1980年2月5日刊(第9刷) 島村 昇・鈴鹿幸雄他 編
町家点描(学芸出版社) 1999年3月25日刊 藤島亥次郎・藤島幸彦 編

1. 町家と京

京町家の成立と構造 (「町家・共同研究」より)

町家＝住空間＋職空間

現代の専用住宅・・・<閉ざされた系>
: 都市の中で、個人及び家族の生活の場を確保するだけに終始
町家・・・<開かれた系>
: 新しいものを生み出す場
流通によって新しい価値を付け加える場

生産活動の場

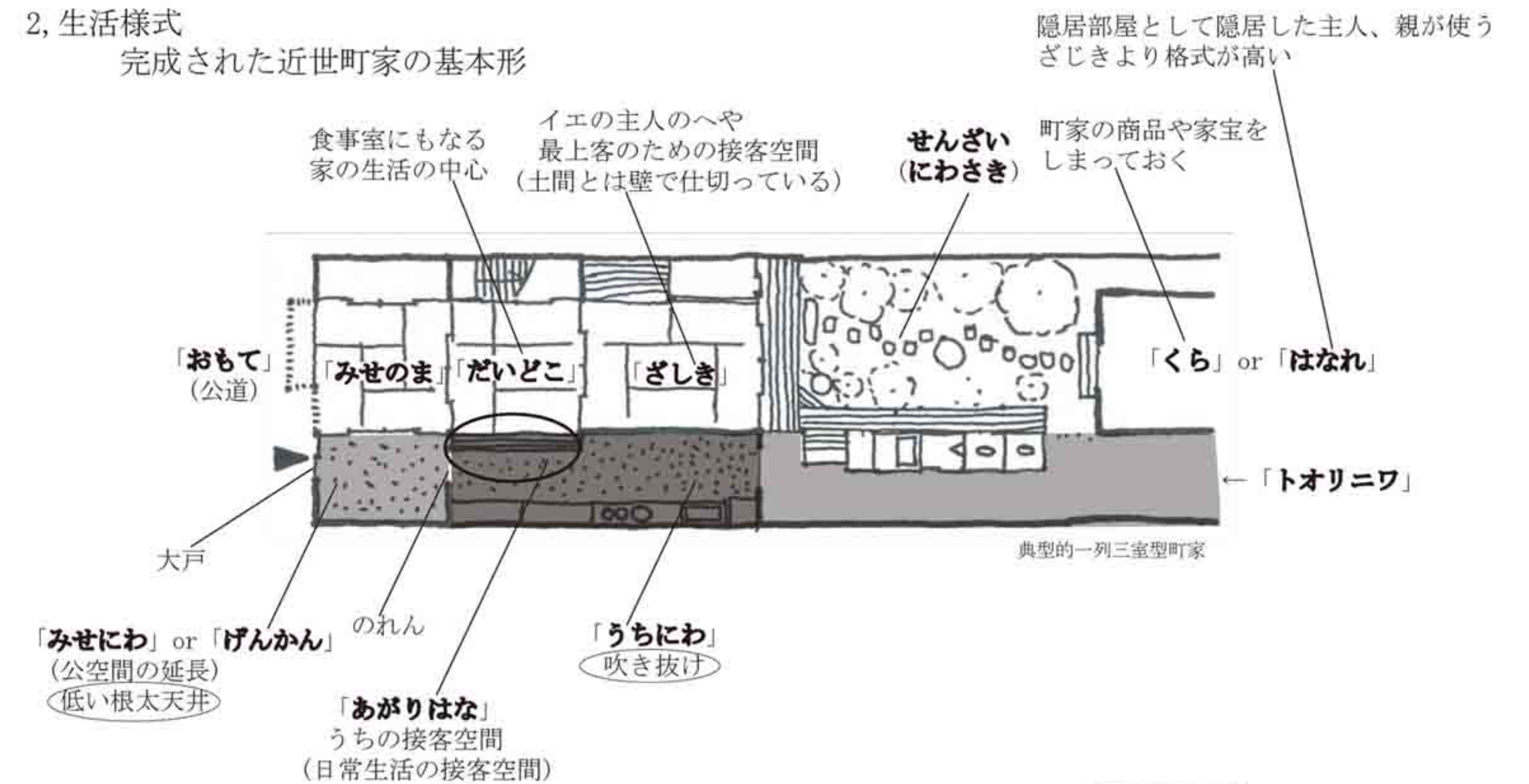
↓
ものを媒介とし、そこに多くの人々ー家族、使用人、都市住民ーが介在することによって都市と関わり合っている。

1. 成立基盤

京町家は、商、手工業の発達により都市経済が発展し、それに伴って、都市人口、特に町人階級の人口増加や高密度居住要請をうけ成立してきた。
また、商・手工業者の併用住宅として出発した町家は、次第に増加する町人階級の量的需要に対して量産的性格を強いられ、住宅の規格化、建設の合理化を促進させた。
その結果、京町家は、わが国の生活様式の典型として先導的役割を果たした。

2. 生活様式

完成された近世町家の基本形

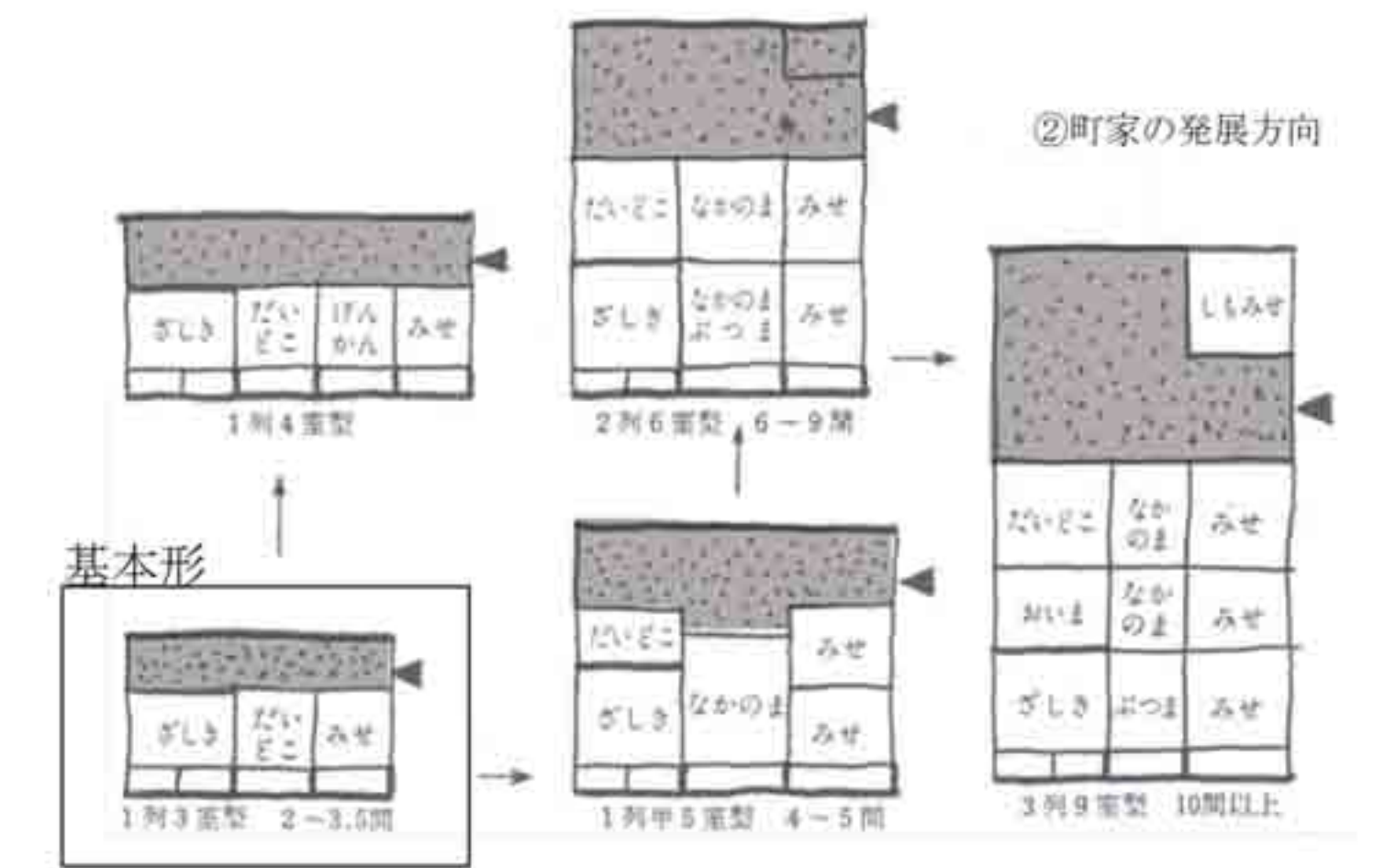


3. 空間序列

町家は、接客空間として
みせのま、だいどこ、ざしき
とはっきり三つの段階を持って対応している。

町家は、イエの公的な接客空間が奥へ奥へ押しやられる指向性をもっている。

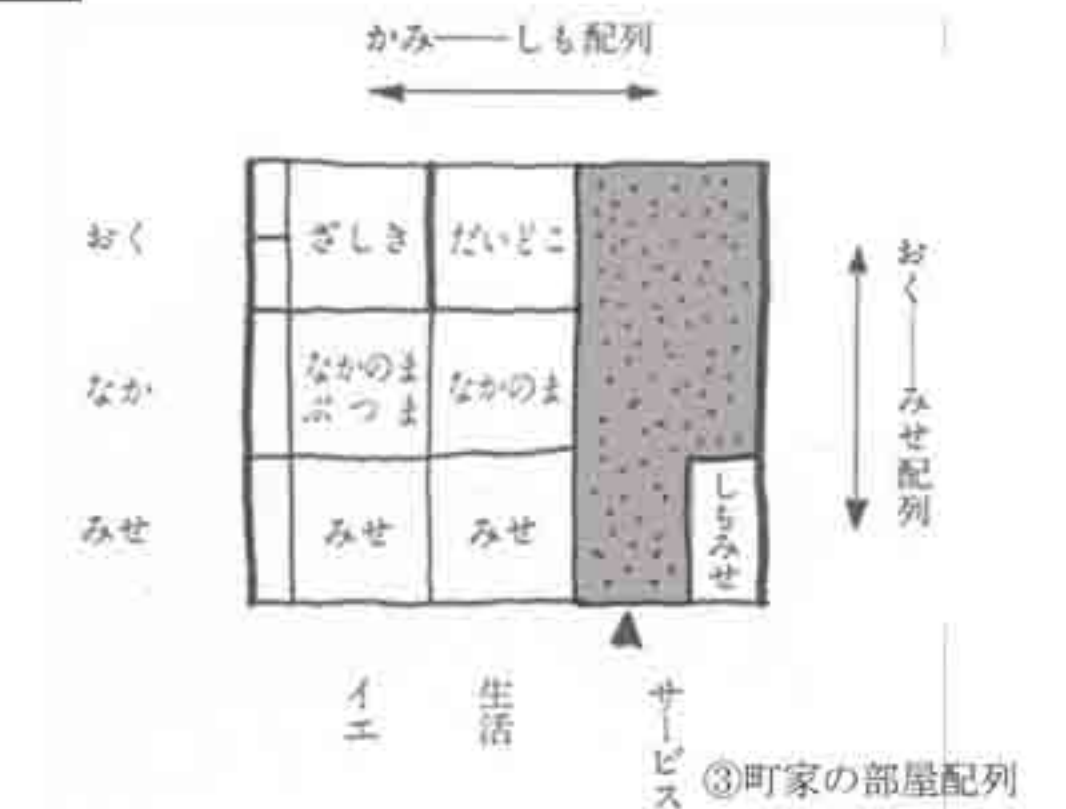
<客>	<対応する家人>	<対応する空間>
みせの客	使用人	みせのま
うちの客	家族	だいどこ
イエの客	主人	ざしき



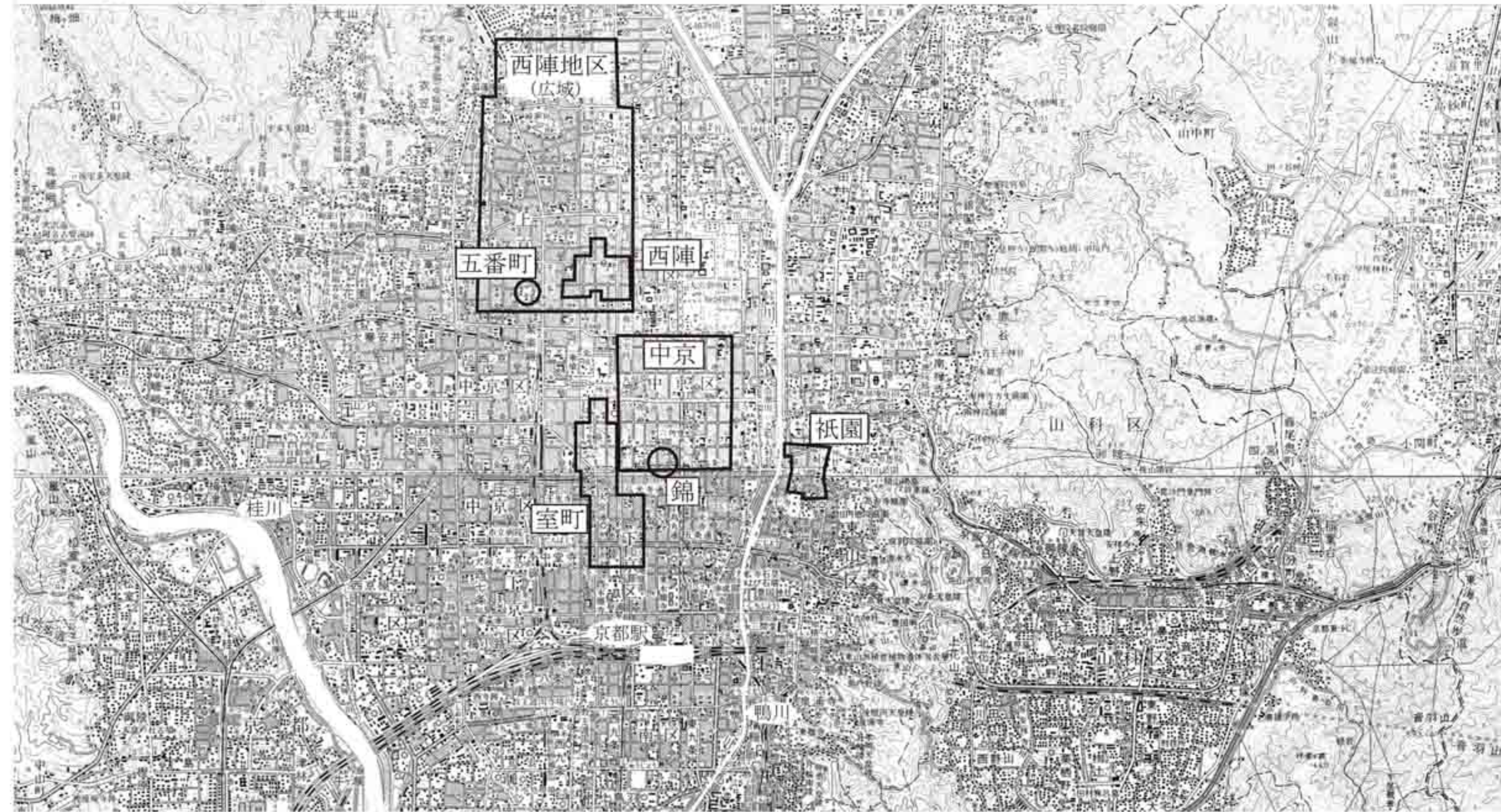
4. へやの機能分化

町家の規模が大きくなると、一列三室型という型が基本形が、二列型、三列型とふえてゆく。(図②)

町家の部屋配列を図示すると、図③のようになる。
これは、おくーみせ配列という縦のラインは、奥に進むほど、私的空間となり、また、かみーしも配列という横のラインは、奥の部屋ほど抽象度が高く、ハレむきというように、はっきり区分化されている。



各お町内の位置

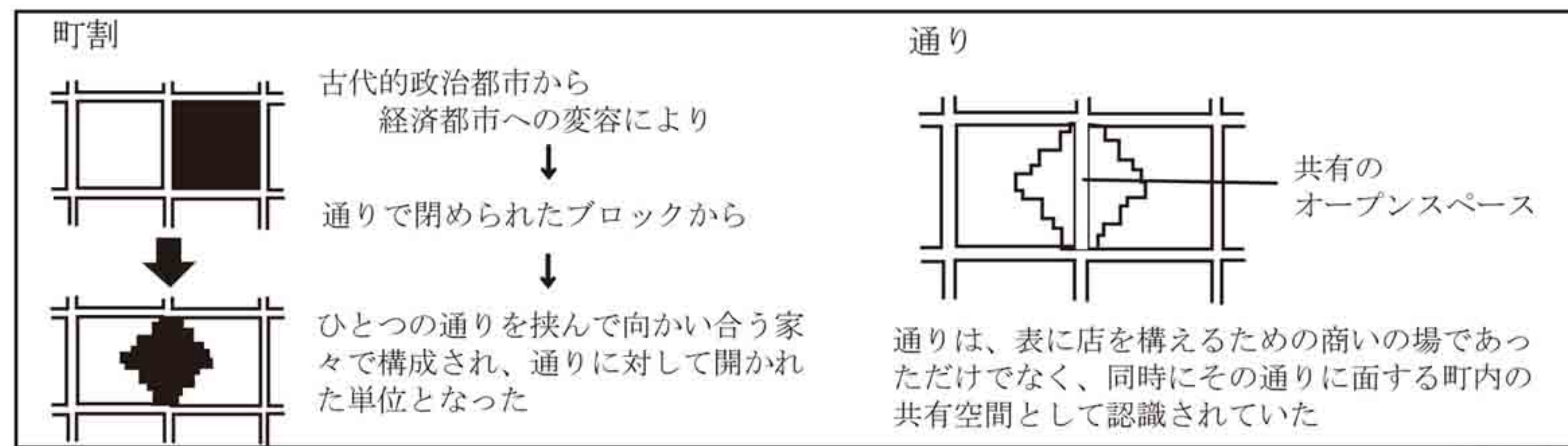


室町・・・室町（鉾町）のつきあいと空間 擬制としての部落

呉服問屋が大半を占め、京都商業の中心地である ----- 空間に影響を与えている

一年に一度の鉾町が運営する祇園祭 ----- つきあいに影響を与えている

①空間



②つきあい

経済的負担を伴う祭があるので、金に関するとりきめは、がっちり決め、その上で町内のつきあいを行っている。また、それらの取り決めや集会、つきあいの場として、町家（ちょういえ）がある。

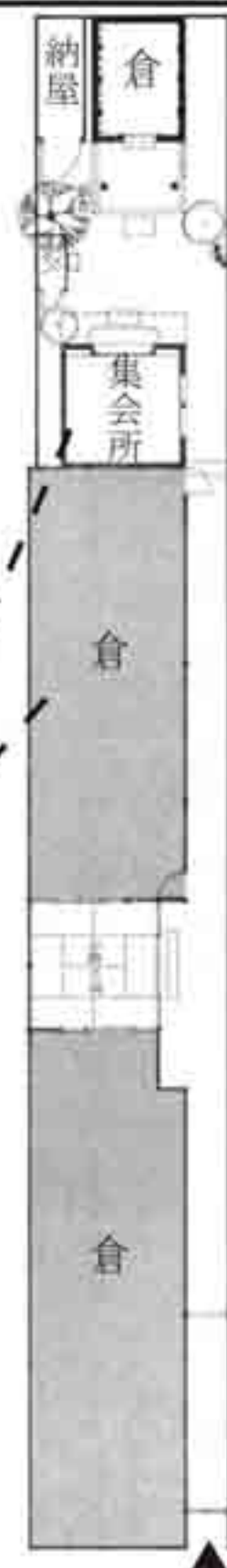


山鉾 上写真、山鉾巡行

祇園祭・・・7月1日の吉符入りに始まって29日の奉仕祭までの、ほぼ1ヶ月にわたる祭

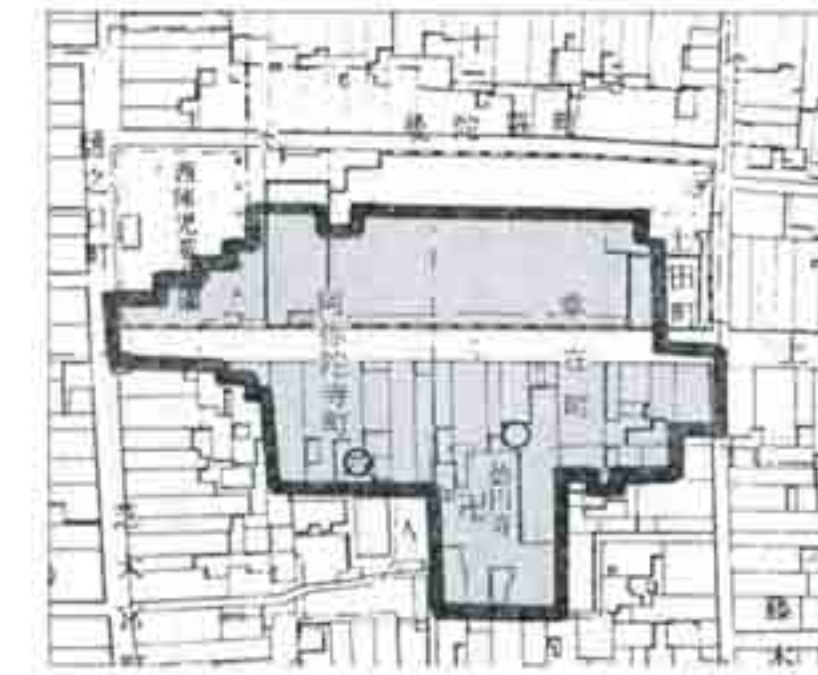
祇園祭の維持経営をする保存会という組織あり

各保存会は、町家（ちょういえ）を持っていて、町家で、山鉾を収納したり、集会所として利用している

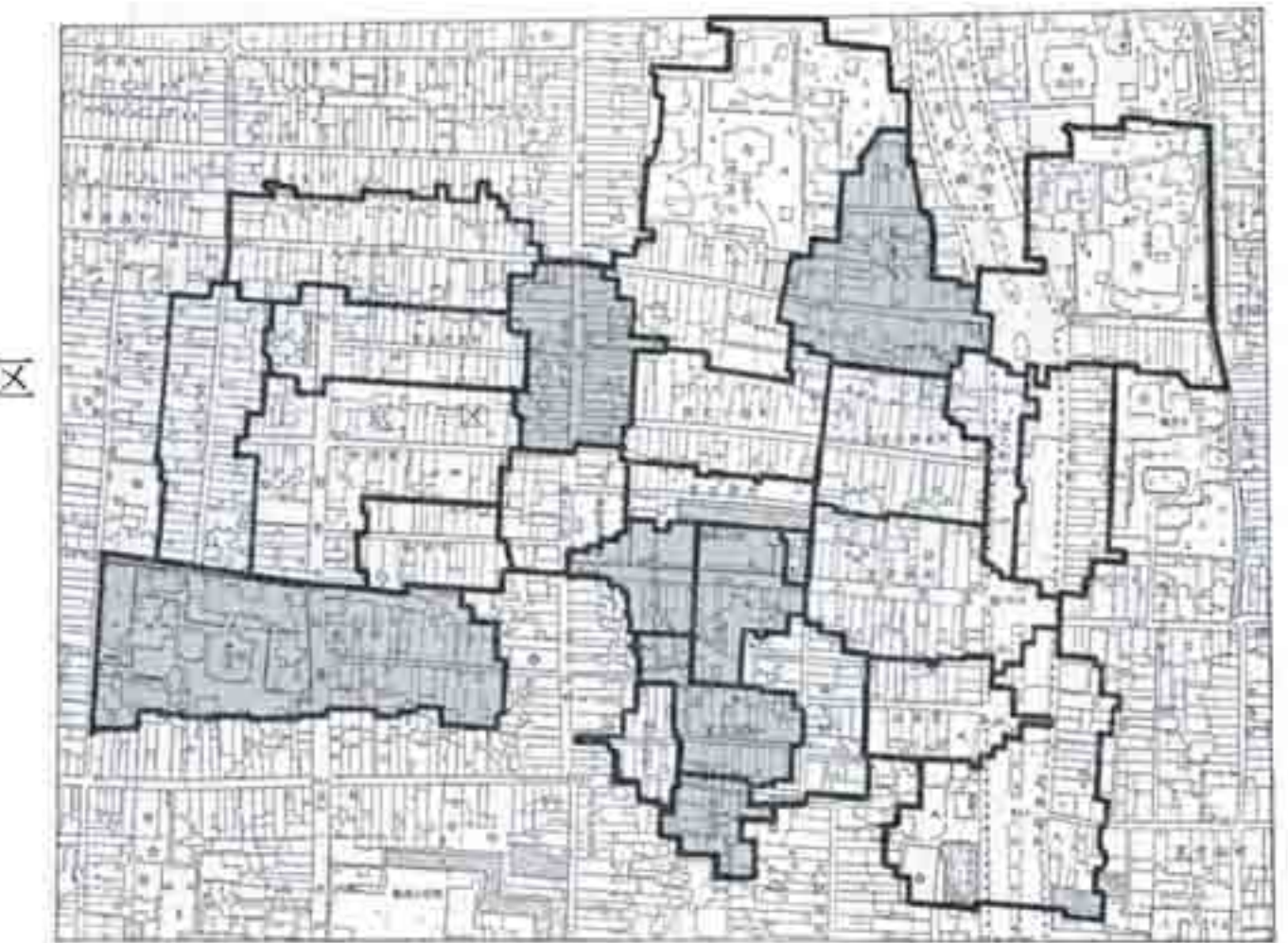


右図面、太子山町町家（ちょういえ）平面図

西陣・・・西陣のつきあいと空間 お町内の人々と生活



幸阿町



西陣学区

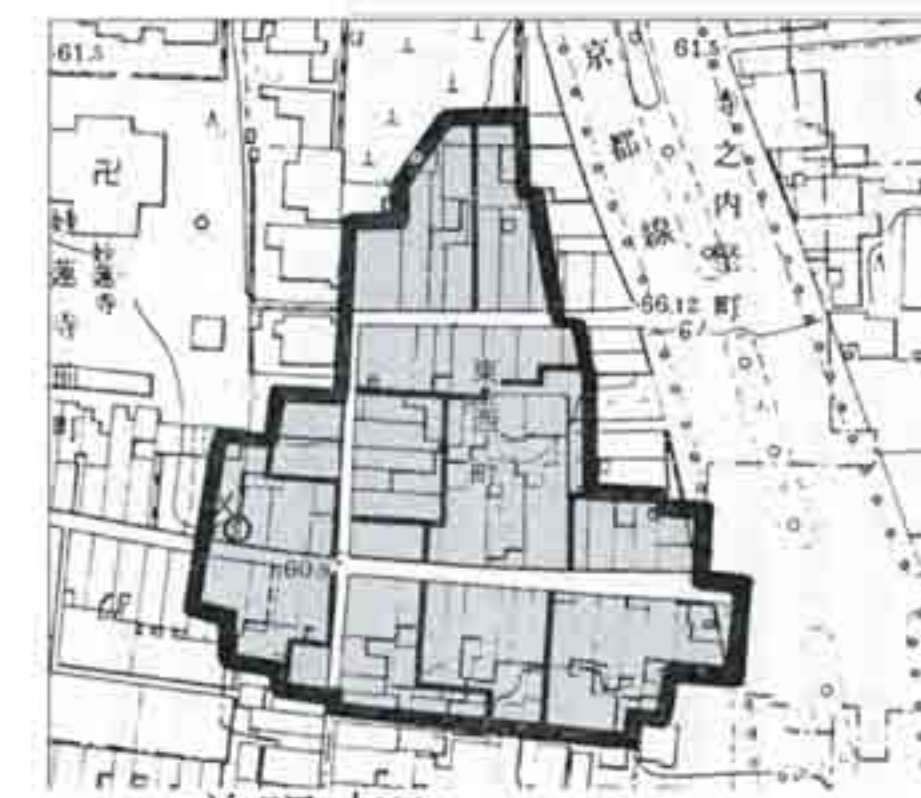
幸阿町

- 小さなお町内・・・幸在町+阿弥陀寺町
- 町の箱・・・町内会組織に町長しかおらず、町内会費を回収するために各家に回される箱
- 町内のあつまり・・・男のあつまり-新年会。料亭で宴会かたがた年に一度総会を開く。
女のあつまり-4月始め徳台寺で、これまで亡くなった物故者をを供養する
町内の女だけが供養ついでに、半日おしゃべりして、羽を伸ばす一種の親睦会
- 子のあつまり-徳台寺での地藏盆
- つきあい・・・子供が減少し、町内のつきあいが薄くなる。

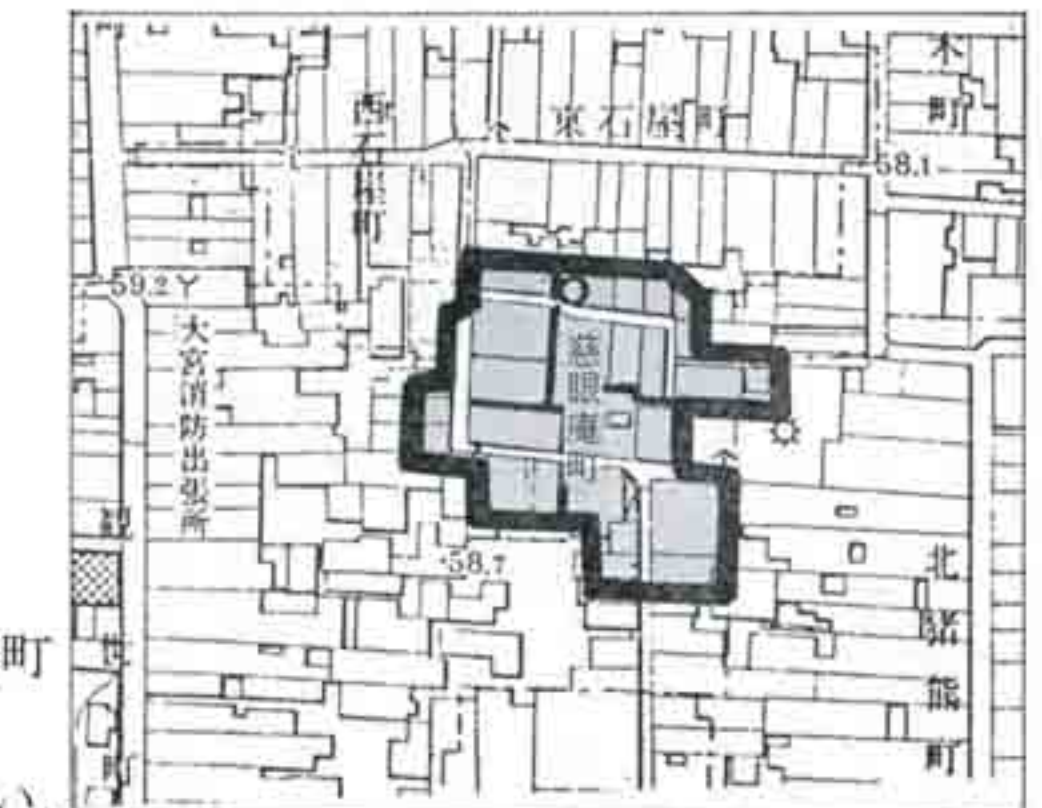
小さな町内というのは、顔見知りばかりで、お互いのコミュニケーションも容易にとれるので、まとまりのよい町といえるが、一方、人数が少ないために、町内の行事が活発に行われること町組織も膠着し、町機能を維持してゆくの難しくなってしまう。

東西町

- 歴史・・・東西に分かれた大きな町内。それに加えて凶子。
- 裏ん中・・・宗忠凶子（そつの子）を寺之内通りにいる人が「裏ん町」、自分の方を「表て町」として区別差別用語であったが、現在その意味あいは失われている。
- 活発な町活動・・・町の行事は、30代の若手の人が実行委員として企画し、運営し、町会長などの役員は対外的な学区レベルの活動に重点をおいている
- 宗忠凶子・・・西陣にしては交通量が少なく、子供たちの格好の遊び場。新年の朝礼、地藏盆。
- つきあい・・・町内が大きいために用事おする人間も多く、しかも、行事を盛り立てる子供も多い。宗忠凶子が、裏ん町という差別の代名詞から、親睦の広場へと生まれ変わったところに、東西町のつきあいの姿が象徴されている。



東西町



慈眼庵町

慈眼庵町（じげあんちょう）

- 移動志向のお町内・・・西陣学区の南端。昔から土地を離れず住み続ける人が少ない。
- 管理中心的町活動・・・家内工業で、自分たちの仕事が忙しすぎて生活時間に余裕がない人が多いこと、彼らとサラリーマンとは、職業的にも年齢的にも離れすぎていて交際しにくいこと

↓
地藏盆以外一切の親睦的な行事を行わず。

ロージとオモテ・・・差別意識にしろ空間的な条件にしろ、この対立的な要素が、お町内の均衡を積極的に維持している。

つきあい・・・つきあいが薄く、お互いに顔をあわさないようにしている程である。

西陣のお町内

- 町内会・・・①組織の構成単位が個人ではなく、世帯である
②町内に居住しているだけで会員たりうる条件を備えておりしかも、ほとんどの人が無意識に教費を払い、暗黙の内に加入している

高密度社会に必然的に生じてしまう軋轢（あつれき）を事前に抑制しておくのに役立っている。
最もプライバシーを守るには、実は逆に程々のつきあいをして、内輪を詮索されないように手を打っておく必要がある。

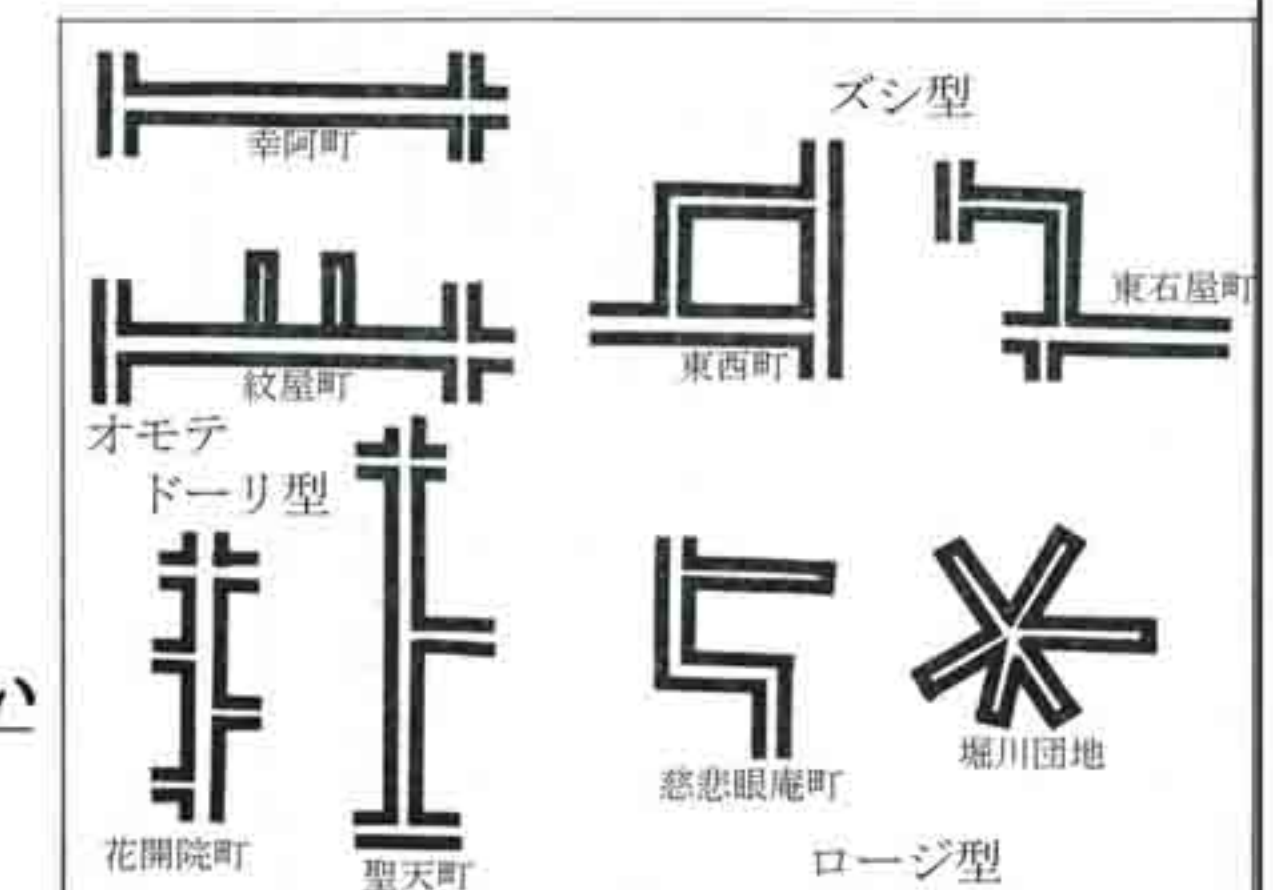
義理の共同体の構造

- ①町内において個人レベルのつきあい=「交際」は極めて発生しにくい
- ②町内にみられるつきあい=「義理」ほかならない

お町内の街路パターン

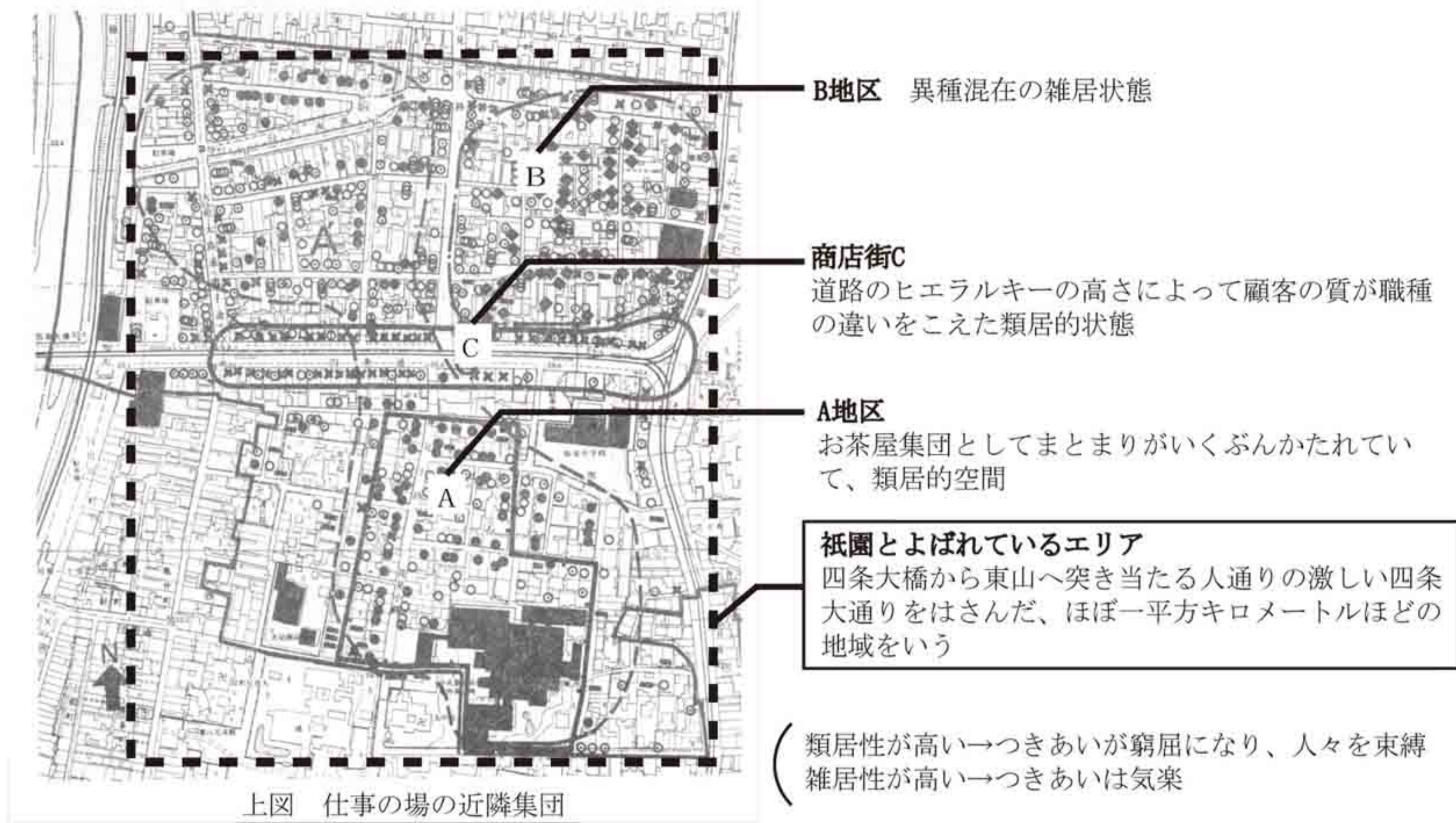
オモテドーリ型 ----- スジ ----- ロージ
それぞれ連続したつきあい-----やや分離したつきあい-----分離したつきあい

お町内の規模と回路パターンは、つきあいの形成のされ方に重要な関連を持っている。



祇園・・・祇園のつきあいと空間 近隣集団の生態

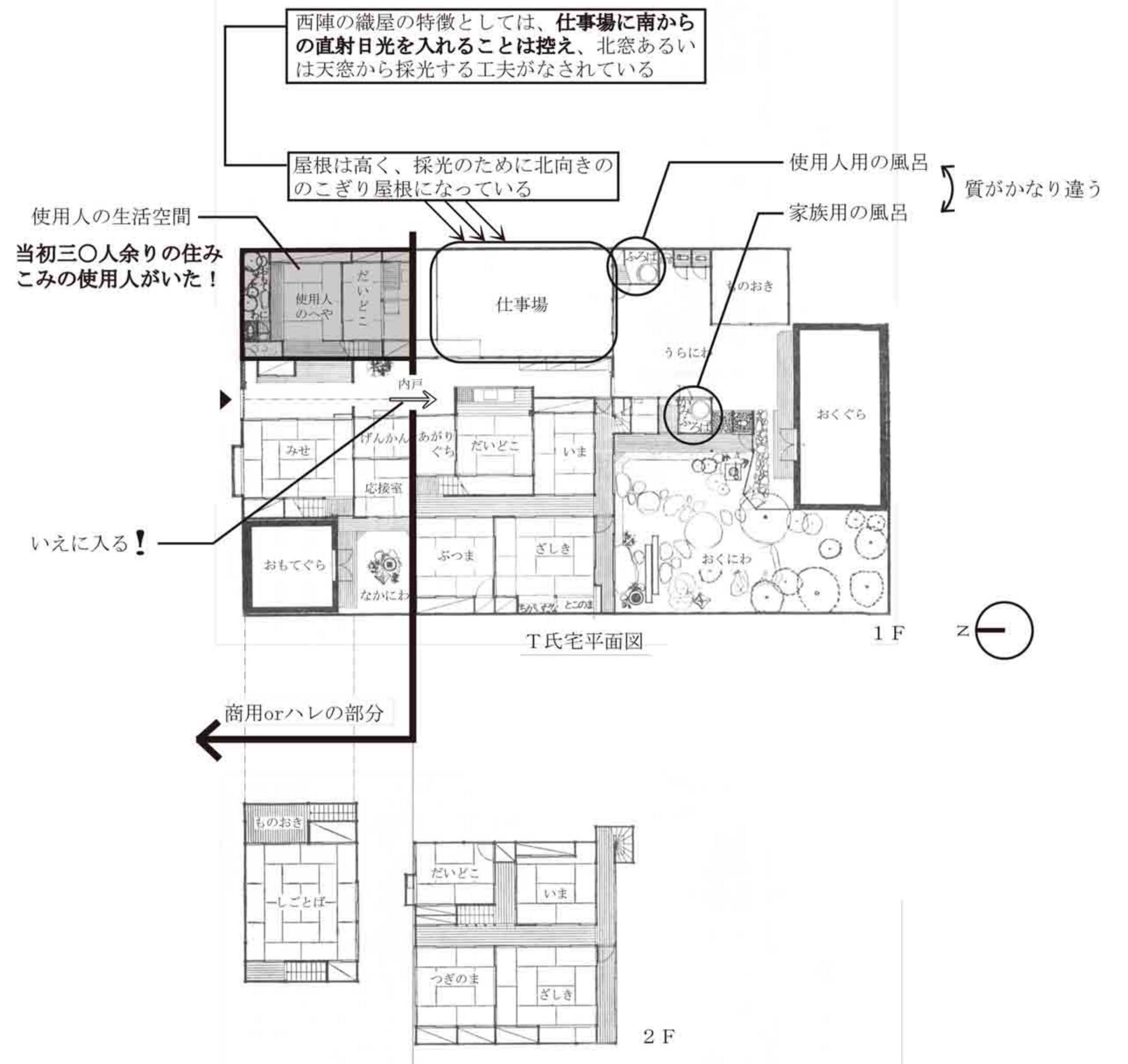
近隣集団 祇園は、同業種の集まりであるお茶屋というイメージが今でも支配しているが、それらの立地と所属するつきあい集団の性格によって、空間的にいくつかの型分けをすることができる。



2.京町家・・・職業と空間

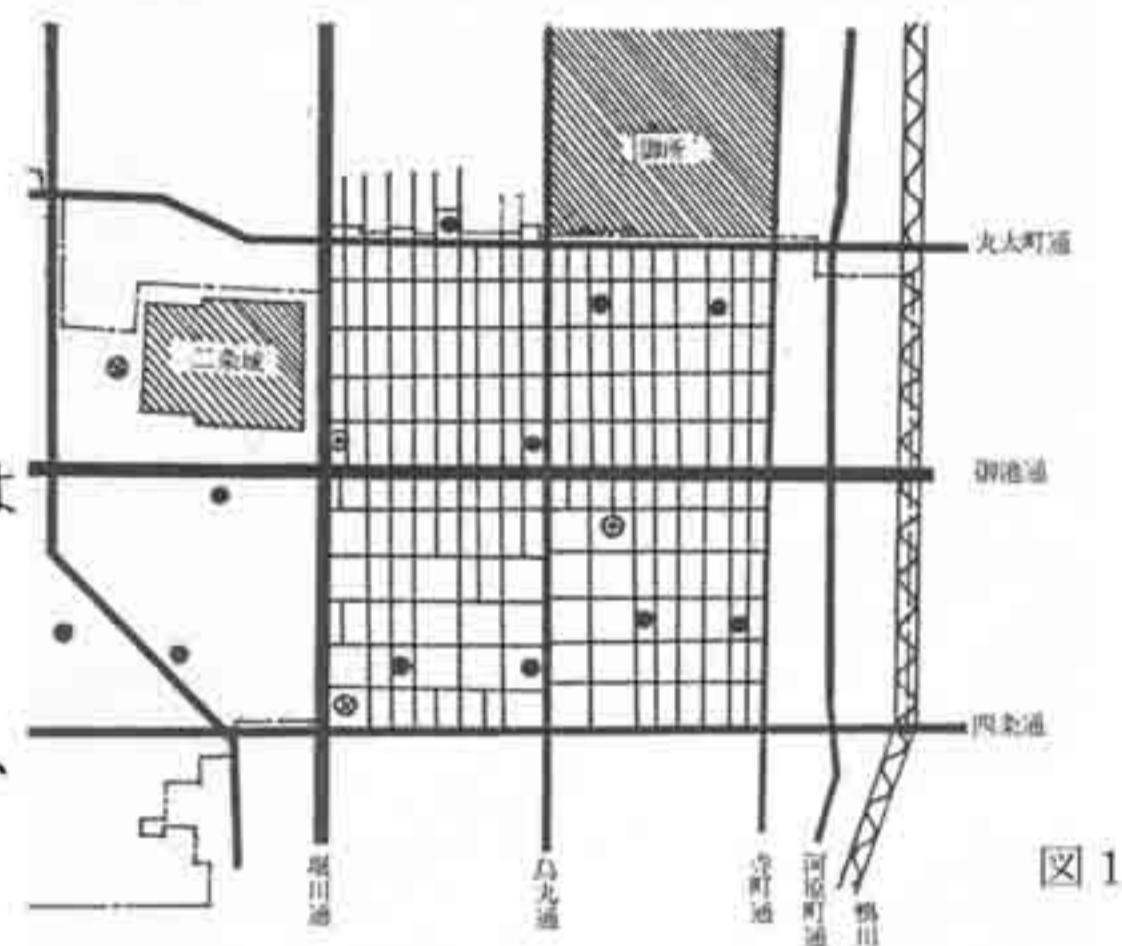
西陣 / 織場 (「都市住宅7106」より)

西陣は京都の代表的な伝統産業の一つである西陣織の機業地帯である。仕事はおおかたの場合、住居と工場や店などが併設された町家型住宅で行われている。



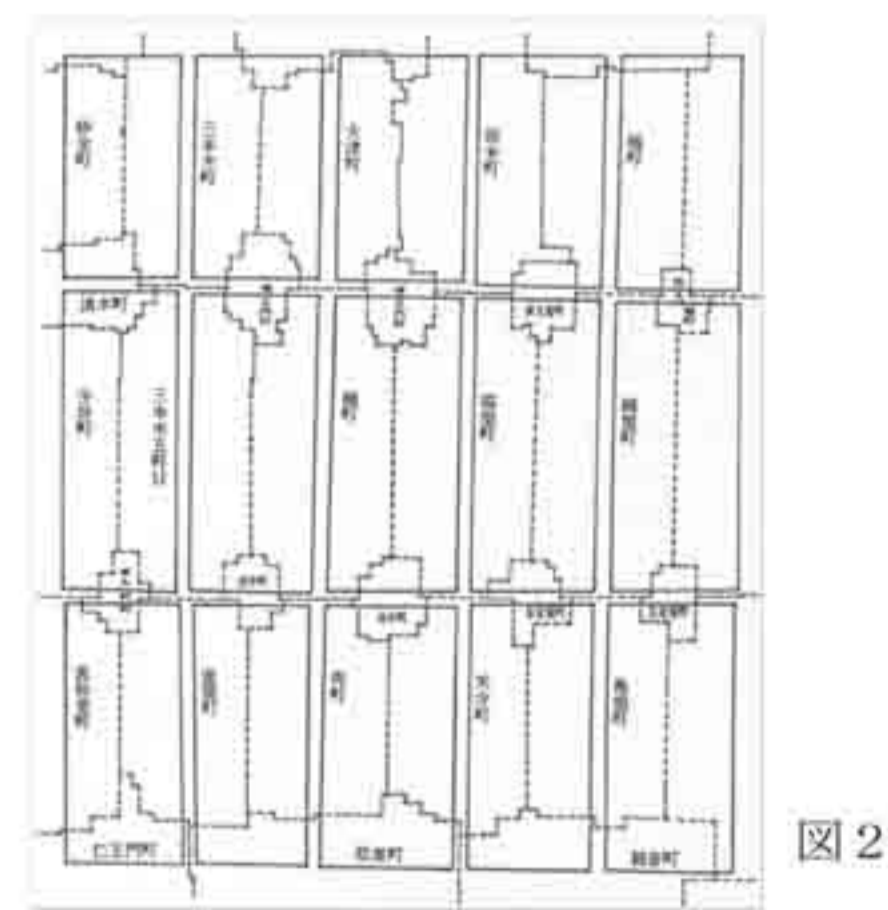
中京・・・室町のつきあいと空間 ウラの生活
ブロック集住体

丸太町通、四条通、寺町通、堀川通によって囲まれた区域は旧来の街路区画が判然としており、ブロックのユニット性を強くあらわしている。この区域は中に御池通、鳥丸通が十字に通って、4つのスーパーブロックに分割している。(図1) 各スーパーブロックは長方形ブロックと方形ブロックとで構成されている。(図2) この最小の格子ブロック内部空間(ウラ)はトオリ(オモテ)の公的な空間とは異なった私的空間であるが、しかし連続性、近接性、依存性を伴った空間構成である。



ウラ

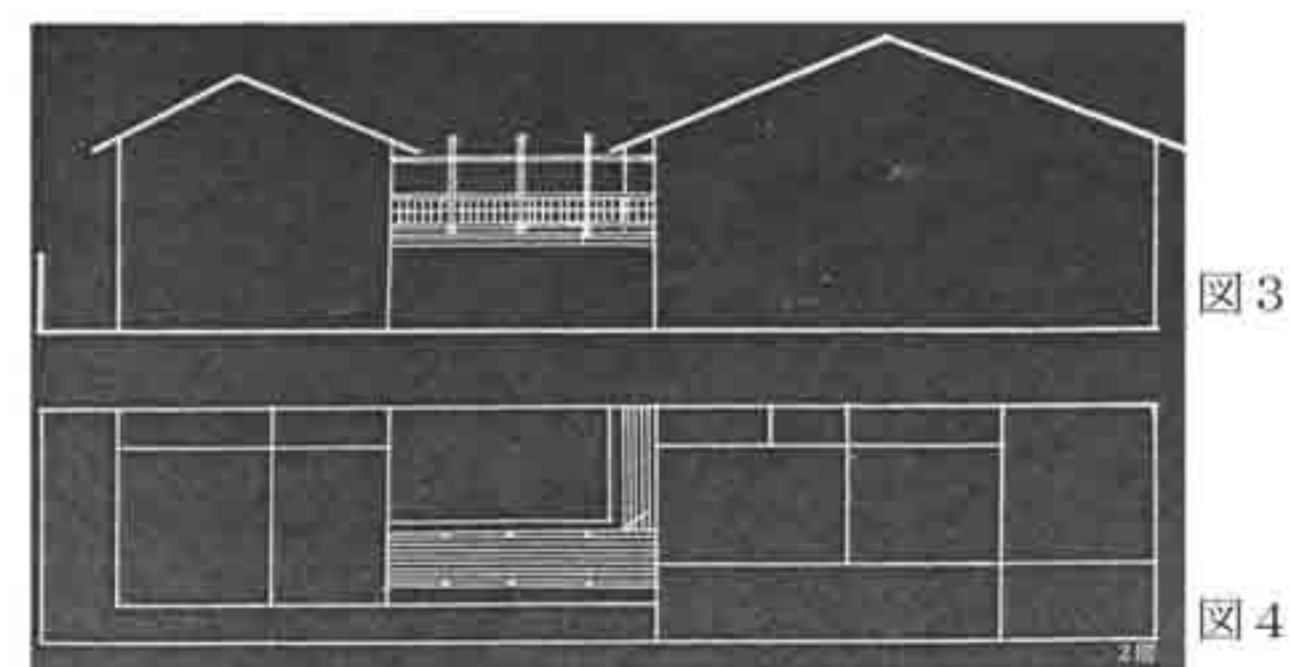
中京の町家のプランは住生活を1列の行列に配置し、その行列の中間や背後のオープンスペースにオープンスペース固有の機能をもたせると同時に、イエ内部の生活を流出させ、それらは、隣家や背接家屋と空間的に連続する事によって、パーソナルなコミュニケーションをとっていることである。



二つの装置

このウラの住空間に欠かせないコミュニケーション装置がウラ木戸とモノホシである。

ウラ木戸・・・一住戸に一ヶ所は必ずあり、本来火事などの非常事態のための装置であるが、日常生活でも使用される。これはオモテのつきあいに対するウラのつきあいである親しい間柄で使用される。(図3)



モノホシ・・・建ぺい率の大きな町家では、開放空間が少なく、1階レベルでは太陽や風は十分ではない。町家におけるモノホシ行為は住空間に欠かせない自然的要素などの問題やウラのつきあいとも関連している。(図4)



新しい西陣に向けて

今回の調査のみからはむずかしいが、他の文献調査なども参照にして、西陣の町家共通の問題点をいくつか浮彫りにすると、

- ① 戦災にあわなかった京都では、明治、大正の町家が多く残っており、それらのほとんどは現代の生活に適合しにくくなっている
- ② 西陣人の気概と誇りが協業をむずかしくしていること
→しかし、この要素が高級西陣織を生み出す原動力となっているので、これを伸ばす形での環境改善の方法をみつけ出す必要がある
- ③ 良い町家を残し、悪い環境を改善していく納得のいく具体的なビジョンが提示される必要があること

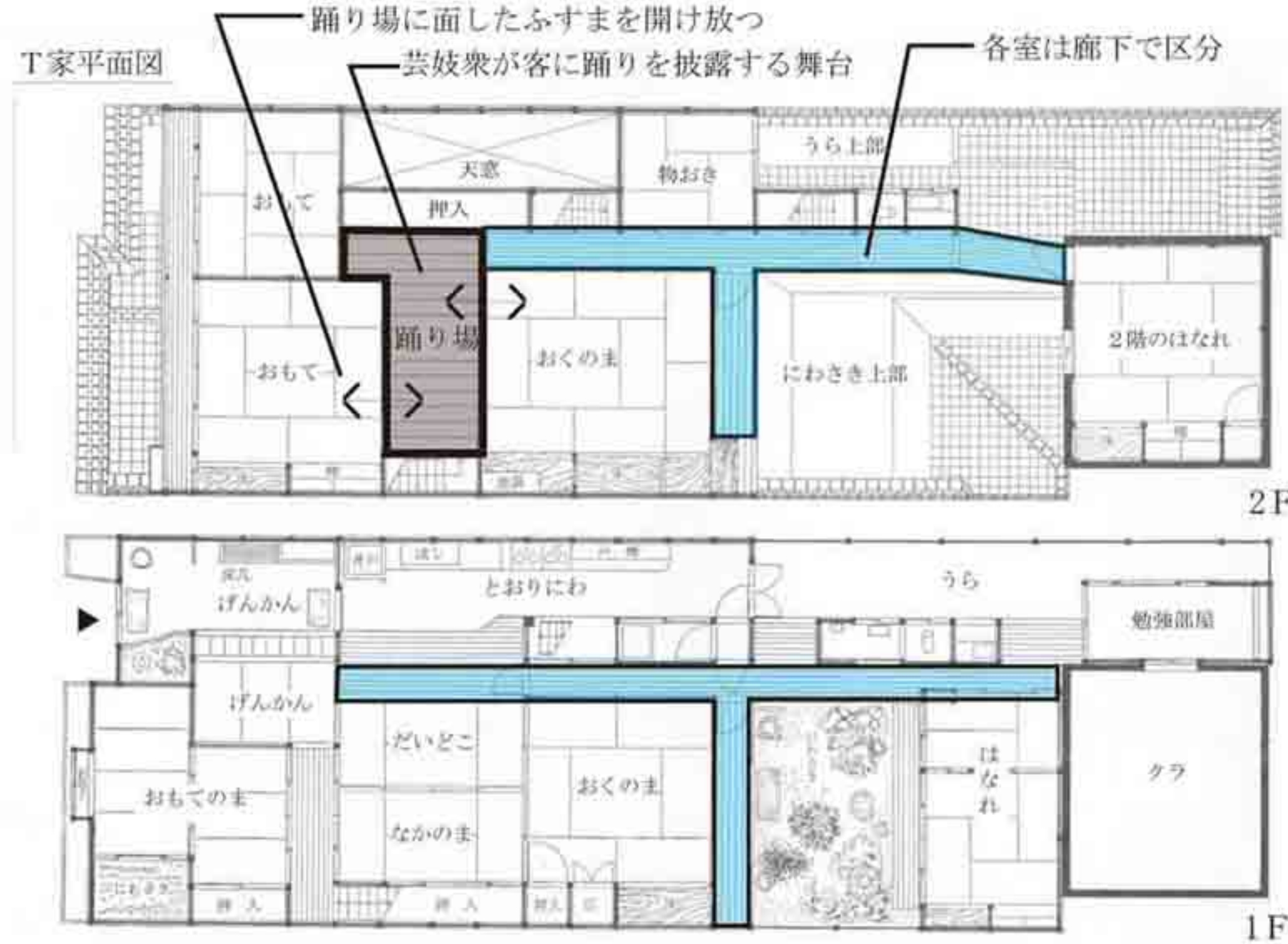
最後に → 美に対する感覚が鋭く、美を愛する心を大切にすることがその生活空間
=町家の中にもみられること
これが京都の西陣織を世界の西陣織に育て上げた原動力といえよう

祇園 / お茶屋 (「都市住宅7210」より)

昼
↓
夜

ベンガラに塗りこめられた京格子などの美しい木部やよごれない塗り壁が、木造建築の美しさの典型をそのまま見せる誇り高い花街

『お茶屋』の一室には芸妓・舞妓そして客たちが、三味の音とともにあでやかな遊興のひとつときをくりひろげる → 祇園は、あやしい遊びの世界と化していく



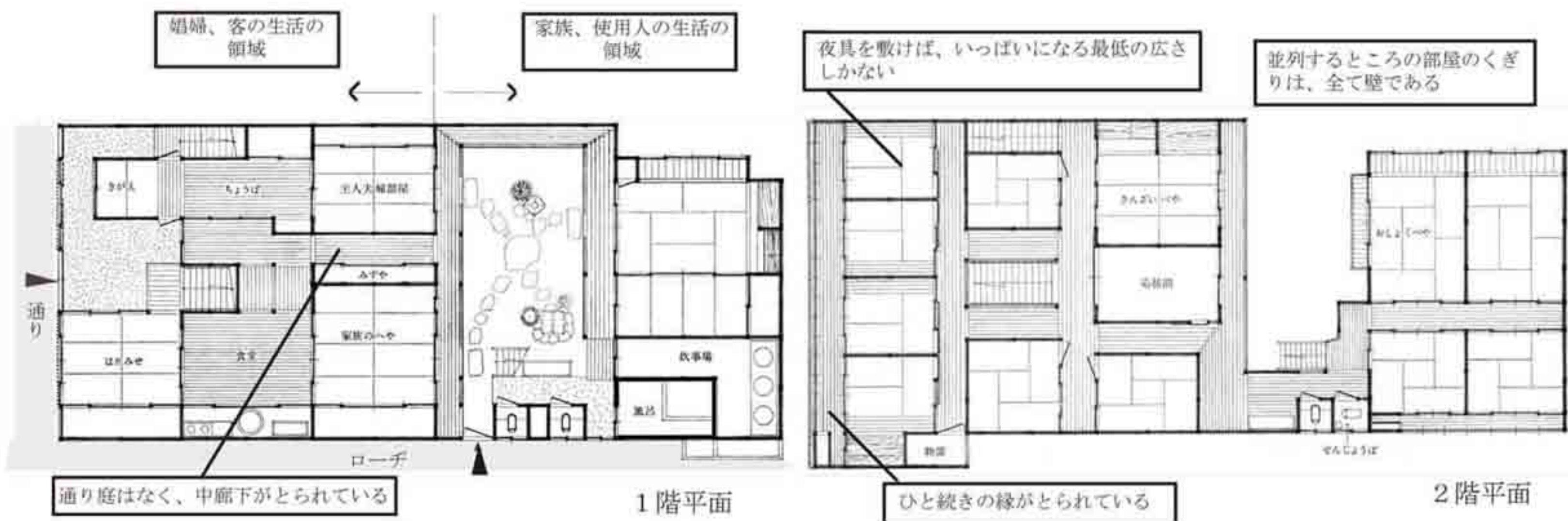
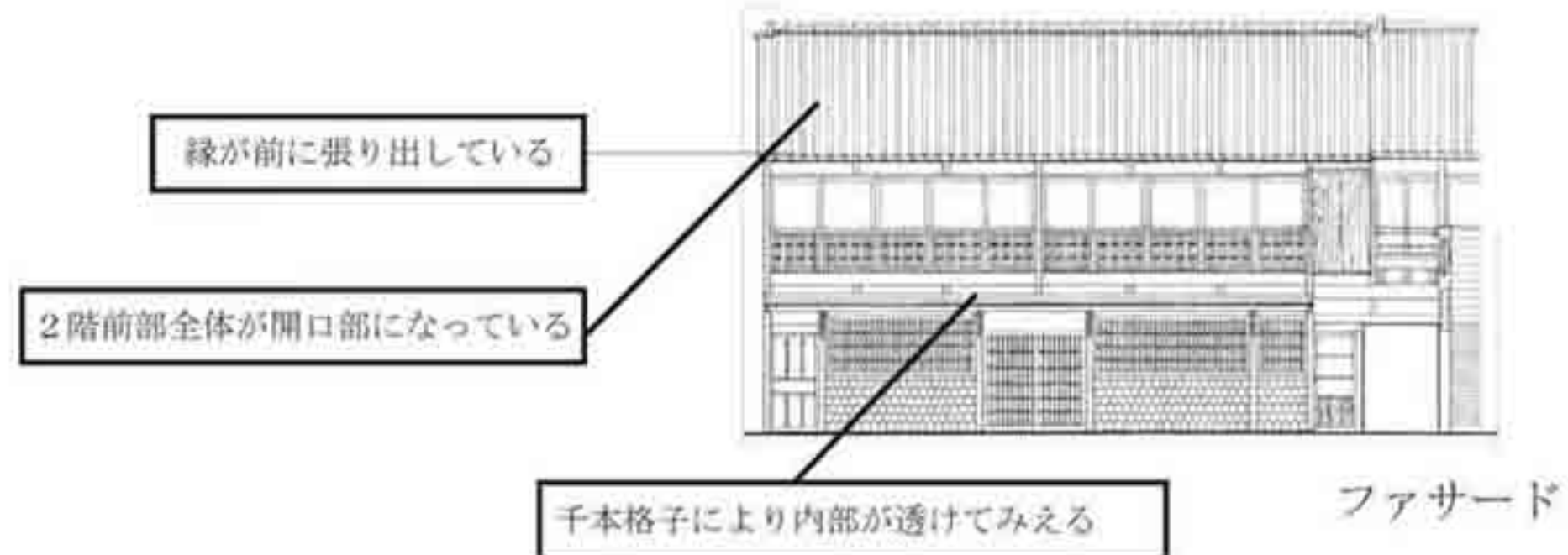
お茶屋建築としての特徴は二階のプランによく示されている

- ①ここでは踊り場が芸妓衆が踊りを披露する空間として使われている
- ②廊下(踊り場)は室区分に大きな役割になっている
- ③各客室間に距離を確保するような方法で二階の間取りができています

↓
お茶屋の平面構成は客同士・客間相互のプライバシーの確保に最も神経がはらわれている

五番町 / 遊郭 (「都市住宅7202」より)

五番町の特徴はファザードにおいては、デコラティブな装飾性であり、内においては低コストの粗末なつくりを示されるように、限られた面積の二階に四畳半個室という基準空間を最大限押し込んだものである。そこには、京の町屋にみられる、きめの細かいデザイン上の処理やムーブブルな空間のための装置、居住性を高めるための工夫は、ここではみられない。



二つの出入口を持つ事で、家族および使用人のグループと娼婦のグループとの生活の領域をはっきり分けている。

錦 / 市場 (「都市住宅7110」より)

代々、400年もつづいている京都の四条通りの裏の市場であり、細かく専門化された商店街からなりたっている高級かつ大衆市場である。しかし実体は三町ほどの間を縫う一本の横町にすぎない。そして現在もここで市場の人々は営みながら同時に生活している併用住宅である。

(図1.2)

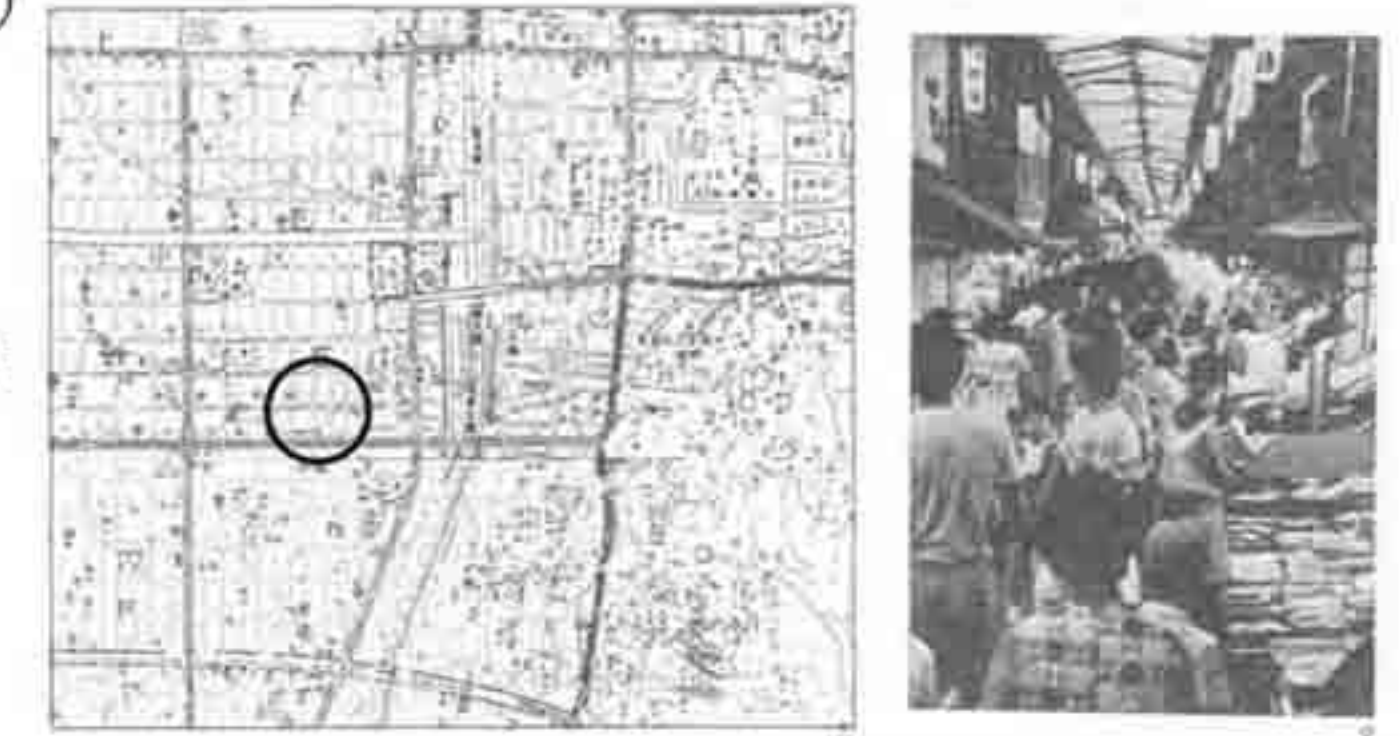


図1

図2

都市構成

錦小路を中心に、周辺の空間をシェルターされた部分とされていない部分(黒地)に分けると、小路に直行する南北の筋や、平行する他の小路では、シェルターされない黒地が各ブロックの中央まで群がっているが、市場となる錦小路では全くそれが見られない。それは隙間なく建てられた町家とアーケードによって都市の中の一つの閉じた空間、一種の大きな建築空間であることを意味している。(図3)



図3

この空間構成により、ものの運搬は固定化され、人の流れはよくなる。(図4)

町家の平面構成

通りにわ・・・トオリ、ミセノマとつづく土間レベルを裏庭、裏物置きまで結んでいる存在であり、ハキモノはいたままでより多くの処理(荷物の搬出入など)が可能となる空間である。

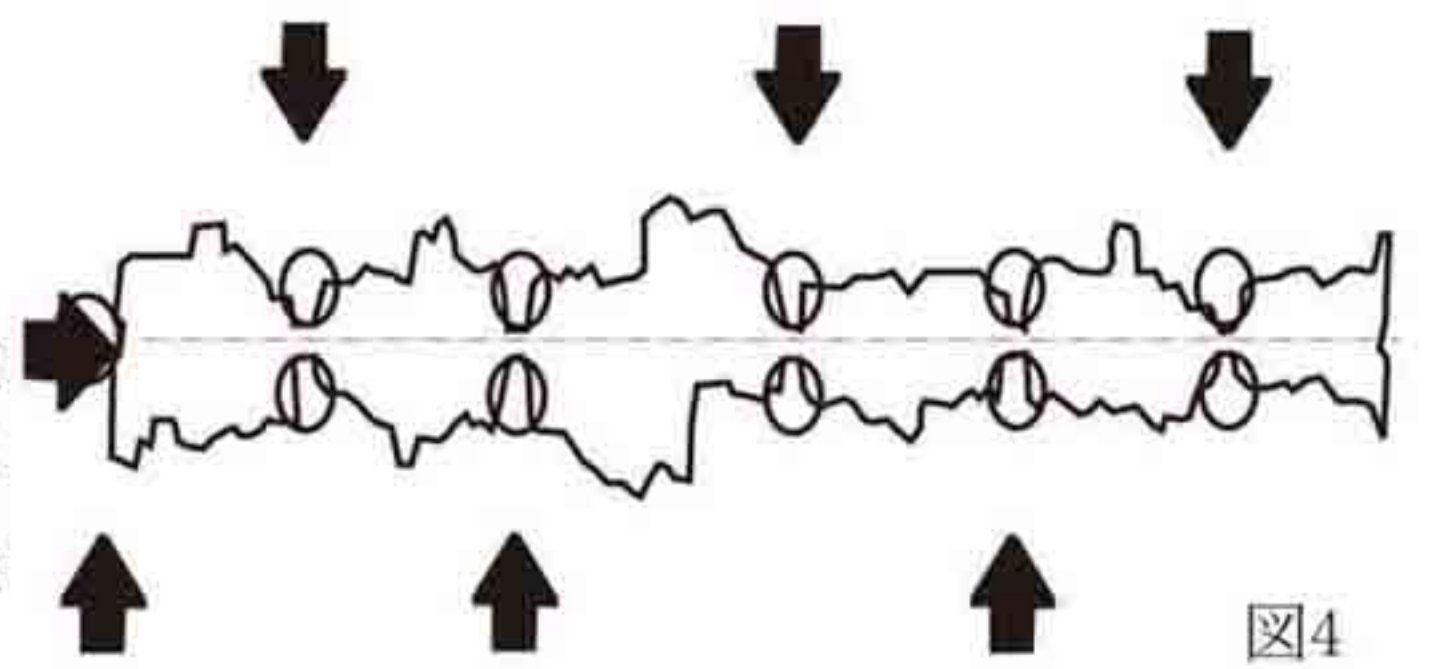
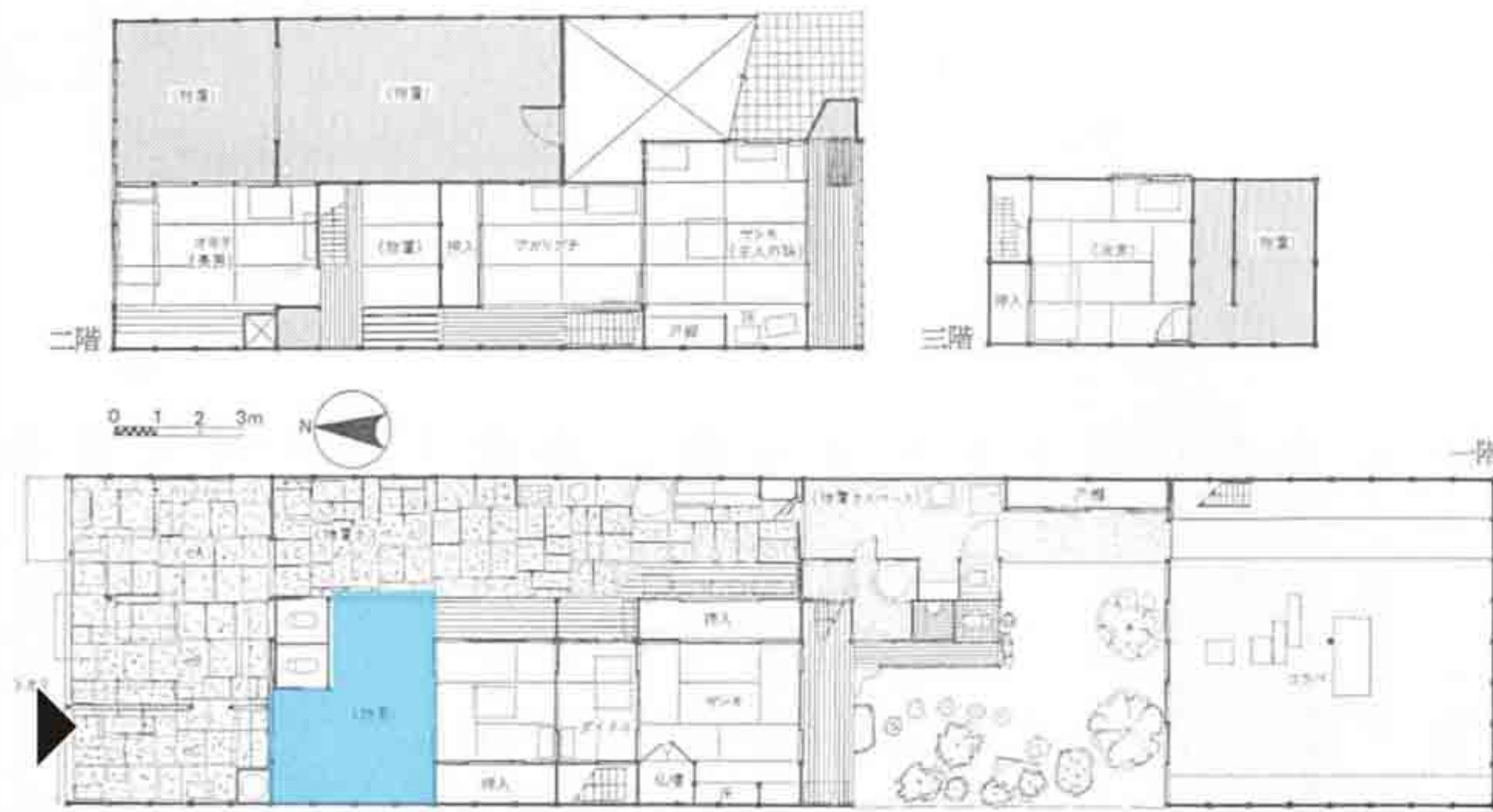


図4

家族の間・・・玄関のないミセの間は外と内を同等化しようとするが、この程度が大きいほどプライバシーが侵害されやすくなるので家族的営みは奥へとなる。



河一郎

中間に非使用のもの置き空間をおきオモテからの流れを断ち切りプライベートの空間を守っている。

5

伏見 / 酒造場 京都市伏見区 (「都市住宅7304」より)

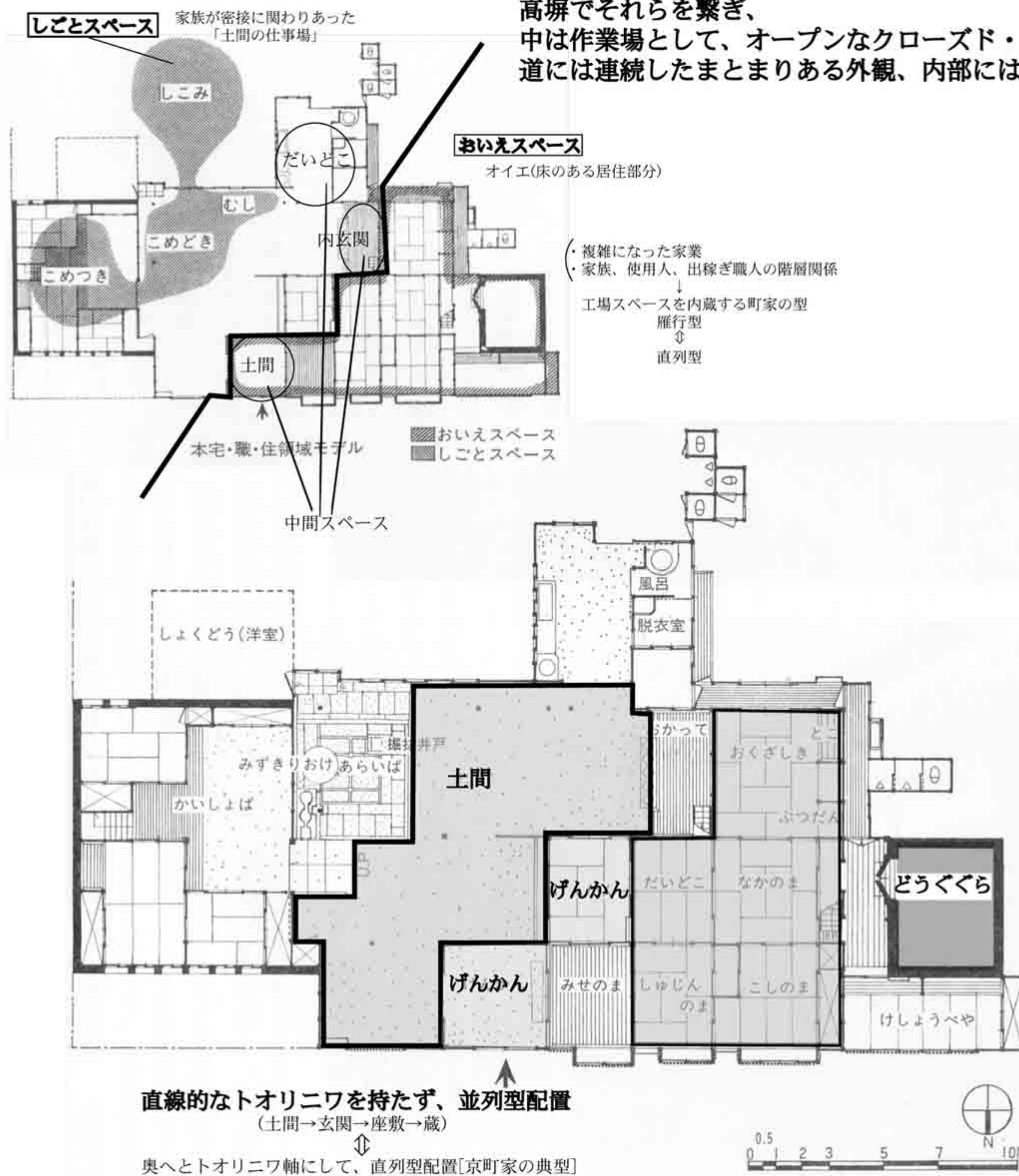
伏見=酒・・・全国第二位の生産高
造り酒屋 → 職住一致の町家の「住む」+「生産する」の極限を指示。

伏見と京
多層な歴史的性格を持つ伏見は、京都へ強く依存
+
地理的に適当に隔てられた工業都市、流通都市として独立性をもつ。

京町家と伏見の町家
共通点・・・ファザード → べんがら格子
二階のむしこ壁
平入りのむくりのある屋根
相違点・・・土地割り → 条里制によらない
酒蔵 → 間口に広い横長の形態

伏見の景観の特徴
・酒蔵と大きな間口をもつ町家 + それをつなぐ高い塀
・酒蔵は、その大きな妻面を通りに露出・・・高塀と一連の板張り
上部に白壁
下部の黒い板壁に多数の窓

酒蔵を営む町家の主なSite Plan・・・敷地の縁に建物を配置
高塀でそれらを繋ぎ、
中は作業場として、オープンなクローズド・スペース
道には連続したまとまりある外観、内部にはゆとり



直線的なトオリニワを持たず、並列型配置
(土間→玄関→座敷→蔵)
↑
奥へとトオリニワ軸にして、直列型配置[京町家の典型]

連続立面 (伏見の街並み)・・・高層の連続→外観の統一感

3、日本各地のまちや
・町家の地域的展開と職業的展開

町家とは住空間であり、職空間である。

また、都市型住宅として京町家が最初に見いだされ、それが、全国に拡散し影響していったものである。



つまり、各地の町家には
①その職業によって違いが見いだされるもの
②各地域の気候、土地柄で違いが見いだされるものがある。

故に、京町家との違いを中心に1970年前後になされたの上田篤研究室調査をもとに、まとめた。

法蓮町 ~町家式農家~ (都市住宅7107) **職業**
奈良市

法蓮町は民家から成り立っている町家である！

各民家は全くの一戸建てであるにもかかわらず、棟の高さはほぼ均一であり、古い民家の屋根は、すべて『高塀造大和棟』形式に仕上げられている

屋根が急勾配な町家式農家の形成



左写真 法蓮町の家並み
下図面 H氏宅断面図

急勾配な屋根

『高塀造大和棟』急勾配をもつトタンを葺いた切妻屋根と板やトタンで覆った両妻がほぼ高さを同じくしてたつもの



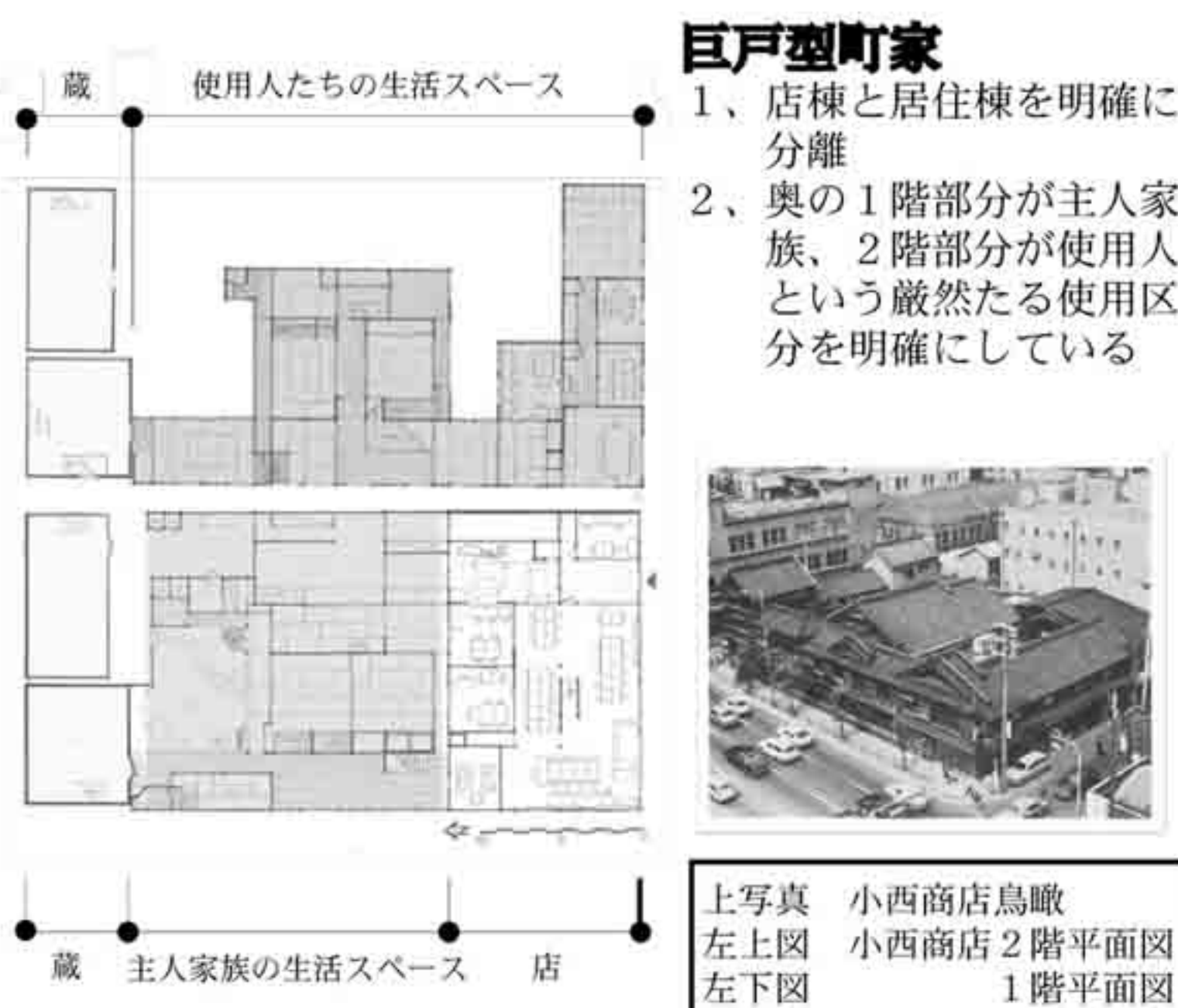
道修町 ~巨戸型町屋~ (都市住宅7208) **職業**
大阪市中央区

道修町は、大阪の業種中心街であった

江戸の本町・橘町・小船町などへひんばんに取引され、また長崎・堺・京都なども活発に取引などが行われるようになり、支配的な地位を占めていった

商店併用住宅の大規模化

開口が大きく表と奥の2棟から構成される巨戸型町家の発生



巨戸型町家
1、店棟と居住棟を明確に分離
2、奥の1階部分が主人家族、2階部分が使用人という厳然たる使用区分を明確にしている



上写真 小西商店鳥瞰
左上图 小西商店2階平面図
左下图 1階平面図

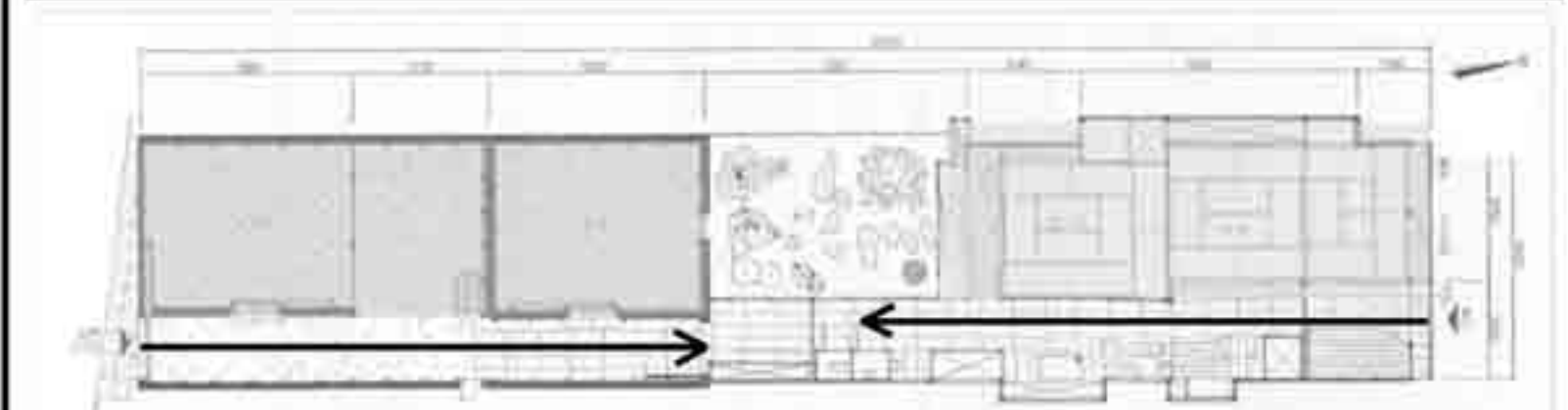
三国 ~こうどを持つ町家~ (都市住宅7204) **職業**
福井県坂井郡



領内の産米をここに送り大阪へ運ぶ船問屋の町家である。災害の問題から普通は、かみへ造られるが船が大きなファクターであるので海のそばに形成されている。

船からの荷物を運ぶためにこうど(とよばれる船着場から蔵までの裏の空間)を使用する。

この事によりウラからの流れが発生し、京町家の手前、奥の関係はなくなりオモテは人、ウラはモノの対称的な流れが発生する。



輪島 ～人前職後～ (都市住宅7111) **職業**
石川県輪島市

輪島塗は全国に販売網を持ち、一元の客をあまり問題にしていない

↓

あまり表に接する必要のない座敷などが前面にある「人前職後」という配置をとっている

京町家は、通りに近い方に作業場があり居住空間が奥にある「職前人後」の配置が一般的である

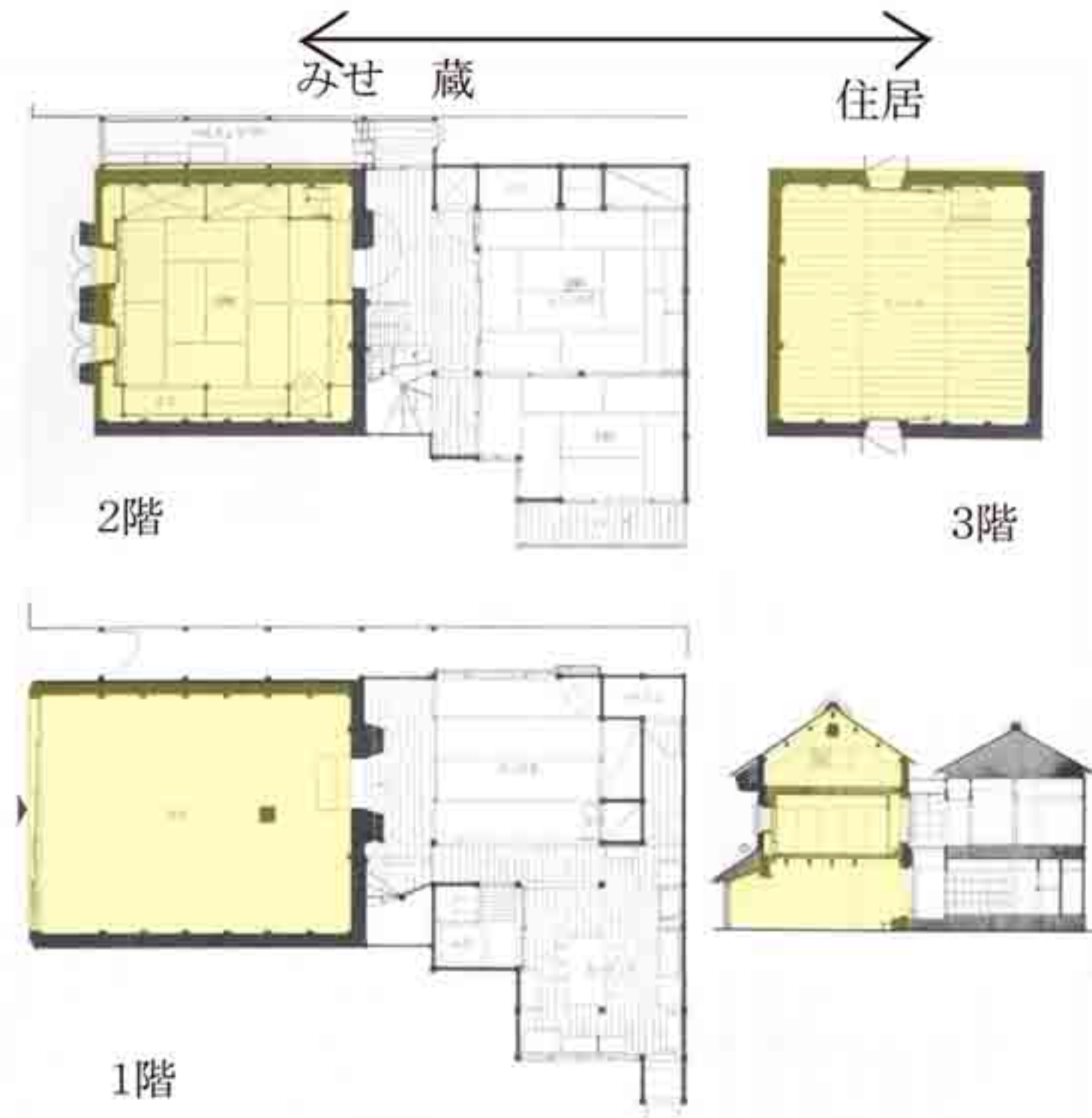


佐原 ～店蔵をもつ町屋～ (都市住宅7303) **職業**
千葉県佐原市

佐原では火事に対する配慮から、商品を守るもの、自分を守るものという意識を持ちはじめた。

↓

そこで、みせ、物置空間を土蔵で作り、これを中心とした平面構成を成している。そして非難の場所でもある。



平田 ～妻入り町屋～ (都市住宅7109) **土地**

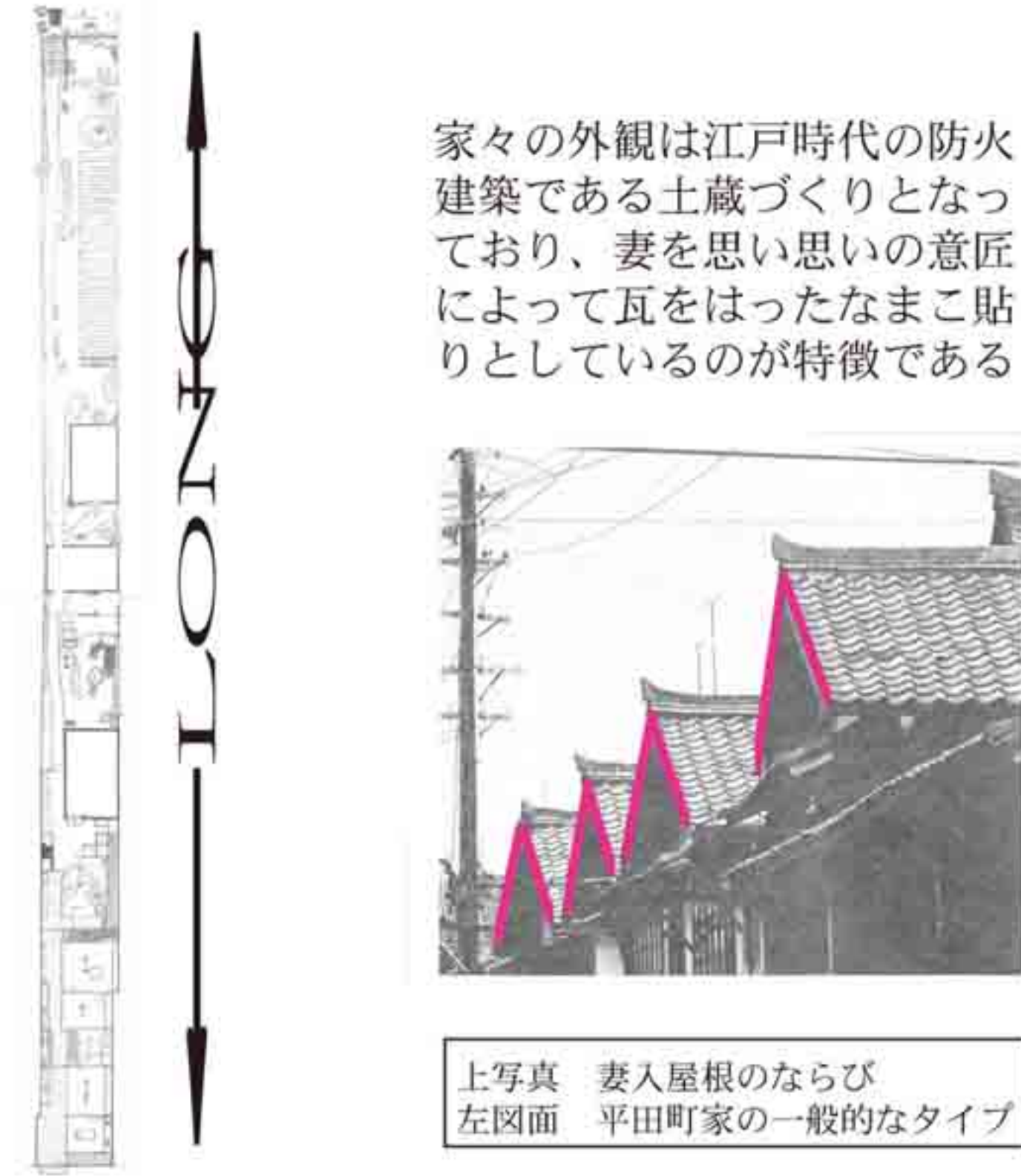
平田の町の地割は開口を限定し、奥行を深くとったものである

↓

家屋もその地割に制約され、庭式一列間取の町家が形成

↓

その過程で切妻妻入の形をとった



高田 ～雪国のすまい～ (都市住宅7105) **土地**

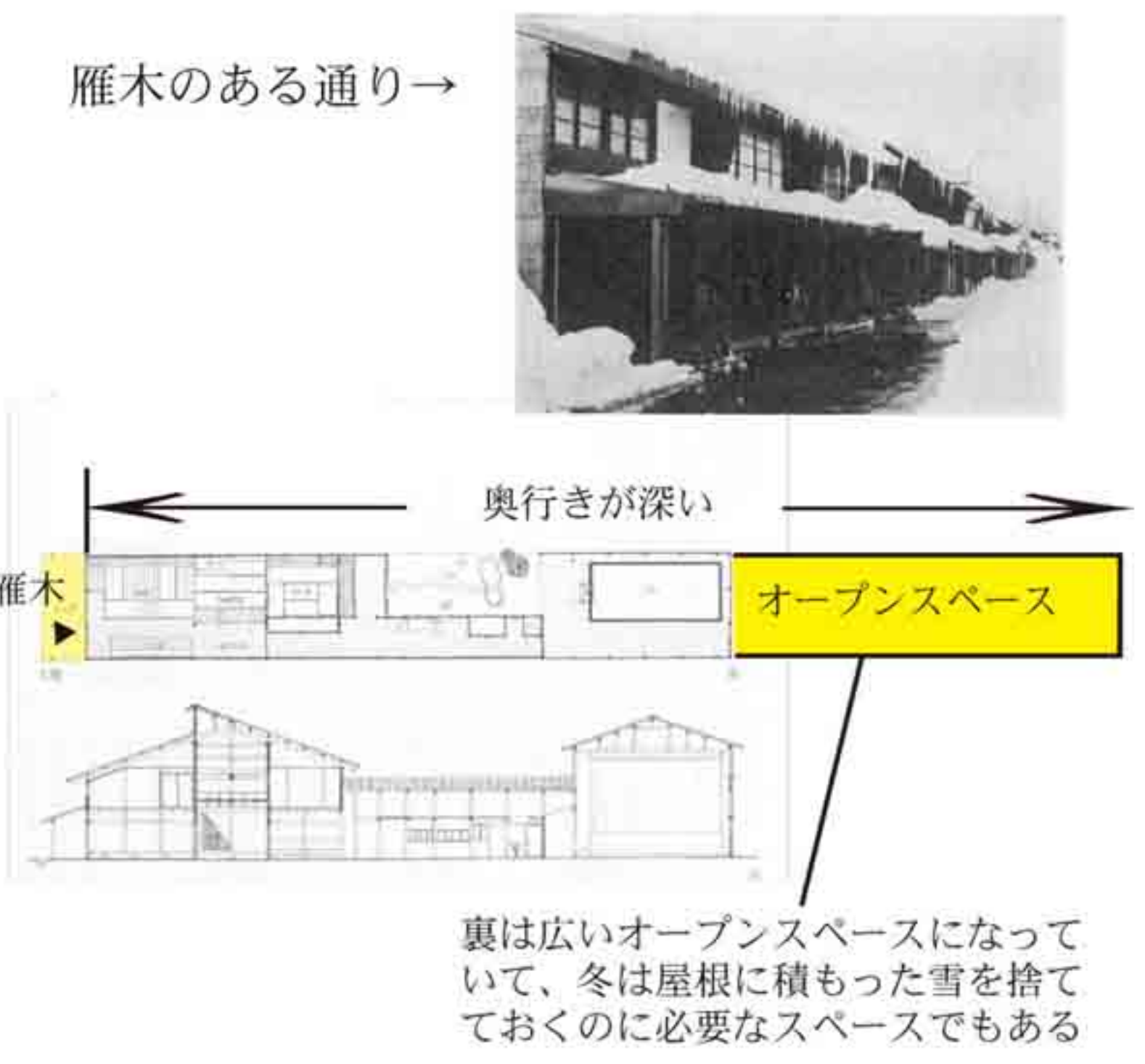
豪雪地域である

↓

雪で通りが埋まり生活が成り立たない

↓

雁木 (下屋の庇を伸ばし、その下を通路とするもの) により雪中の生活を成り立たせている



黒木 ～塗り家～ (都市住宅7207) **職業**
福岡県八女郡

妻入り・入母屋屋根の塗家造り

土地

「農家風備え」と「商家風おもて」の二つの面を兼ねあわせている

↓

京町家のように、奥に進むほど格が高いと言えない

↓

様々な職業を営んでいる

↓

多角商家



笹岡 ～なまこ壁～ (都市住宅7206) **土地**
岡山県笹岡市

山と海に囲まれた限られた地

↓

笹岡の路地は狭く、薄暗い。

↓

極めて高い密度で町家がせめぎ合い、林立している。

明治期に製糸業で反映のピークを迎えたが、後に衰退

↓

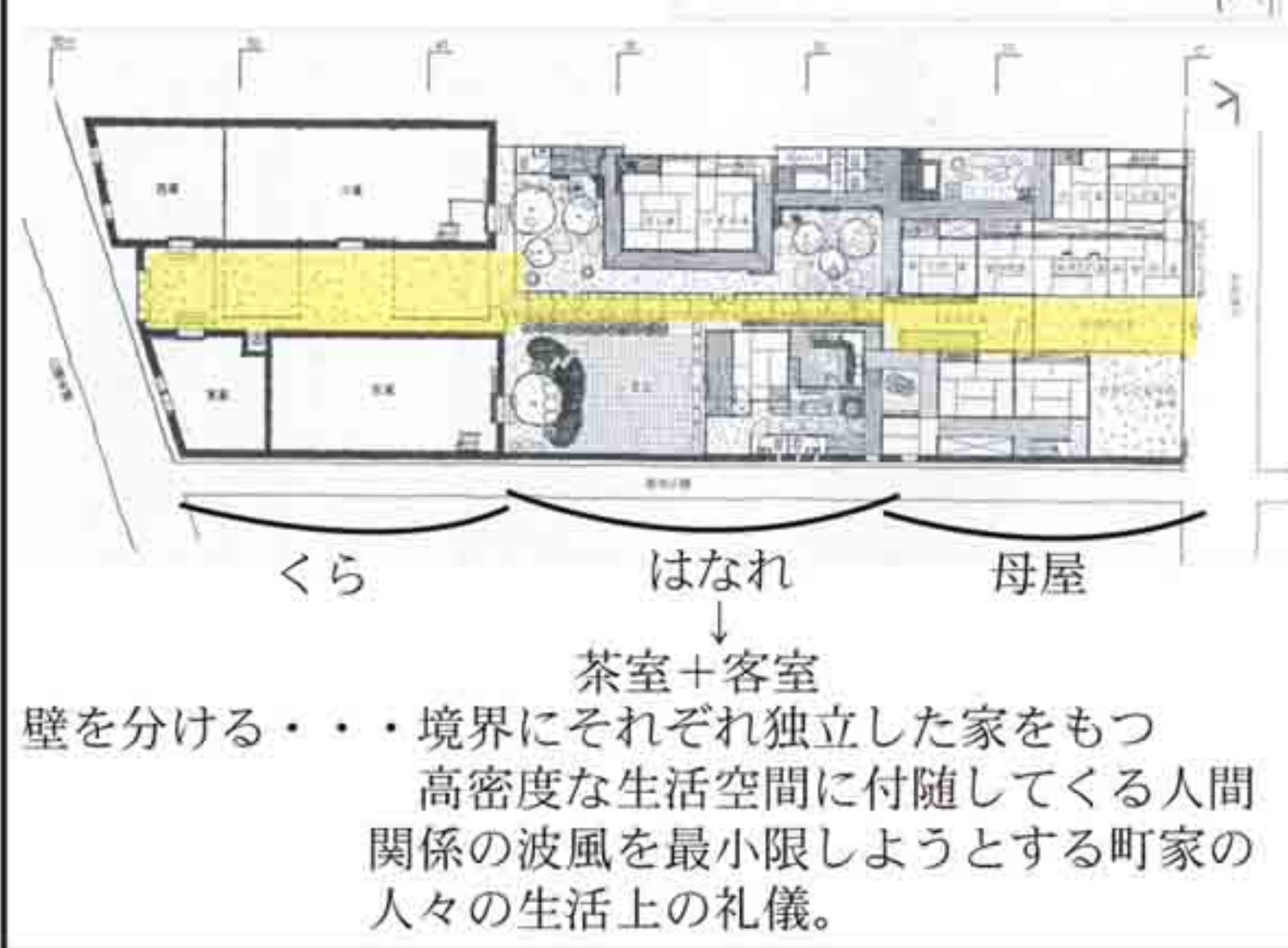
経済力を持たない

↓

屋根と壁の補修

↓

土蔵を保護するための「なまこ壁」



角館 ～雪の中のひろにわ～ (都市住宅7205) **土地**

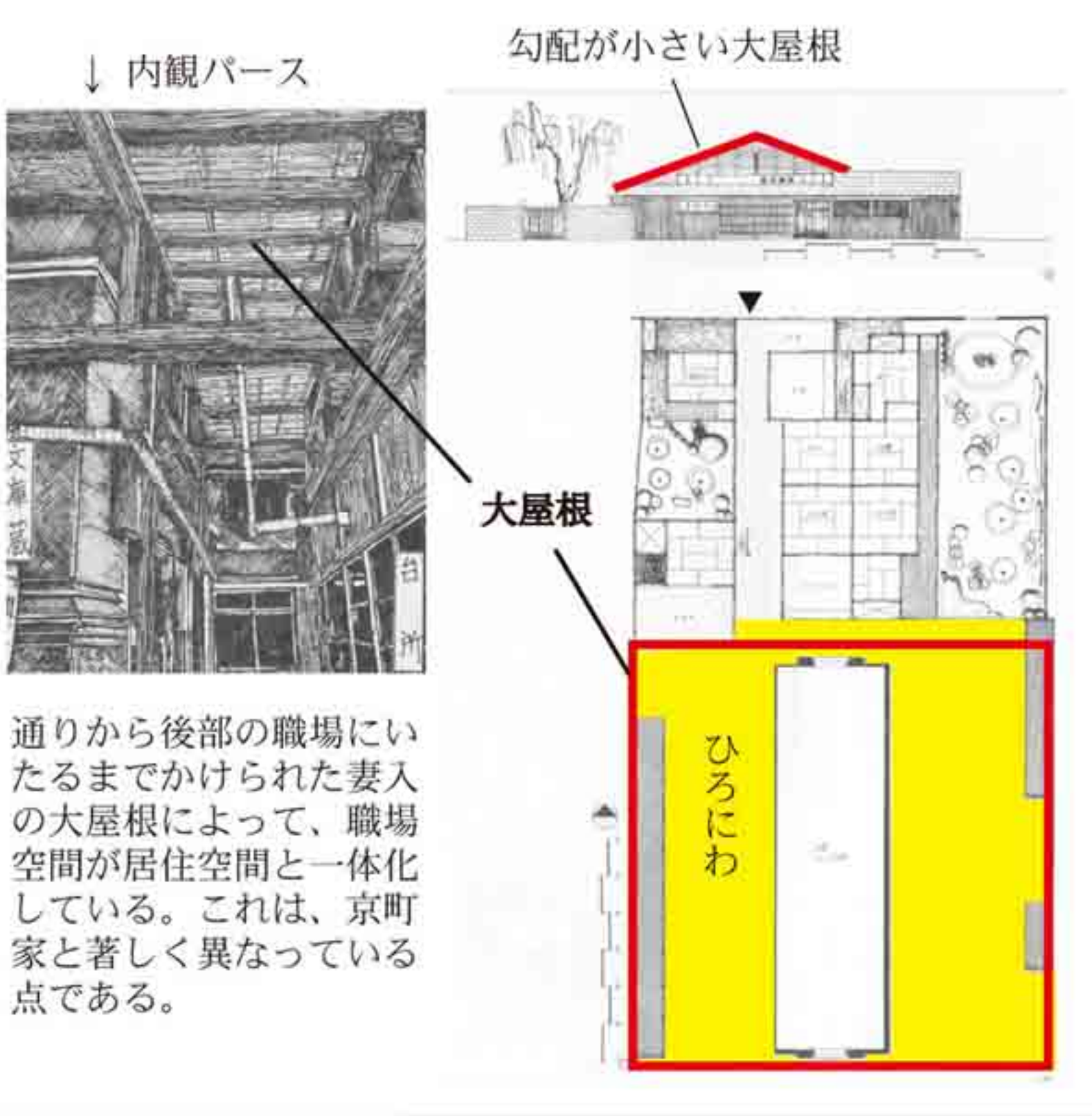
豪雪地域である

↓

雪が滑落するのを防ぐ為勾配の小さい屋根を持つ

↓

大屋根を架ける事で、広い内部空間を確保し、雪中でも職作業できる、トオリニワを拡大拡張した「ひろにわ」というものがある



沖縄先島 ～町家のない町～ (都市住宅7206) **土地**

南島に伝統的町家は見当たらない。それは、他で見られた分業化された専門小工業者(流通機構たる商業者層)が成立していない。

↓

海岸線に集落を形成しており、職業空間を備えた都市型住宅は存在する。

↓

特徴①街路パターンに規則性がない
②住居様式に統一性が見られない
③風景を造るのに突出した要素がない

↓

ハレとケという、左右上下に格の違いがある

